

鑑定
美術類集
下

182
69

館書圖京東				
二	六	一	一	一
冊	九	架	函	類
號	號	架	函	類

古銅之事

一銅器ハ和漢共其起縁を案ずる太古の事あれば一書不願一書不願

レハ時代を其人あるも附合せざるを惑ふ處あり本邦の物のふるやと

想ハ漢土の製品と著しあるものあり銅器ハ往古ハ製する古鏡の裏

にハ用ふきふ似て只徒らふ記を時ハ何品何品不属を

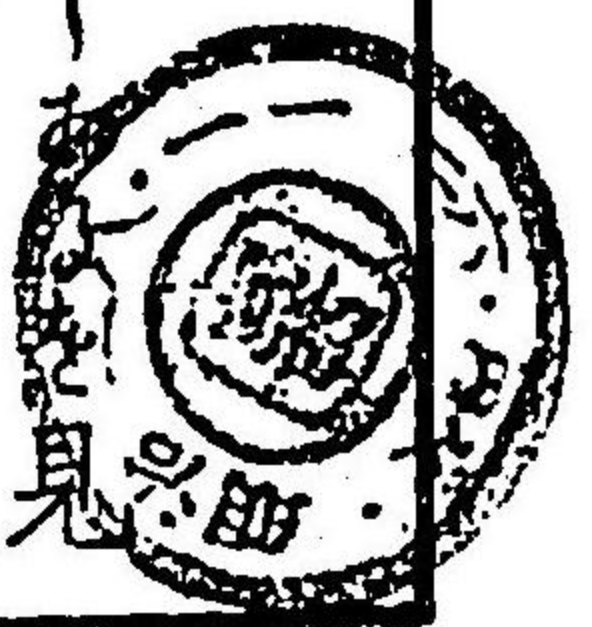
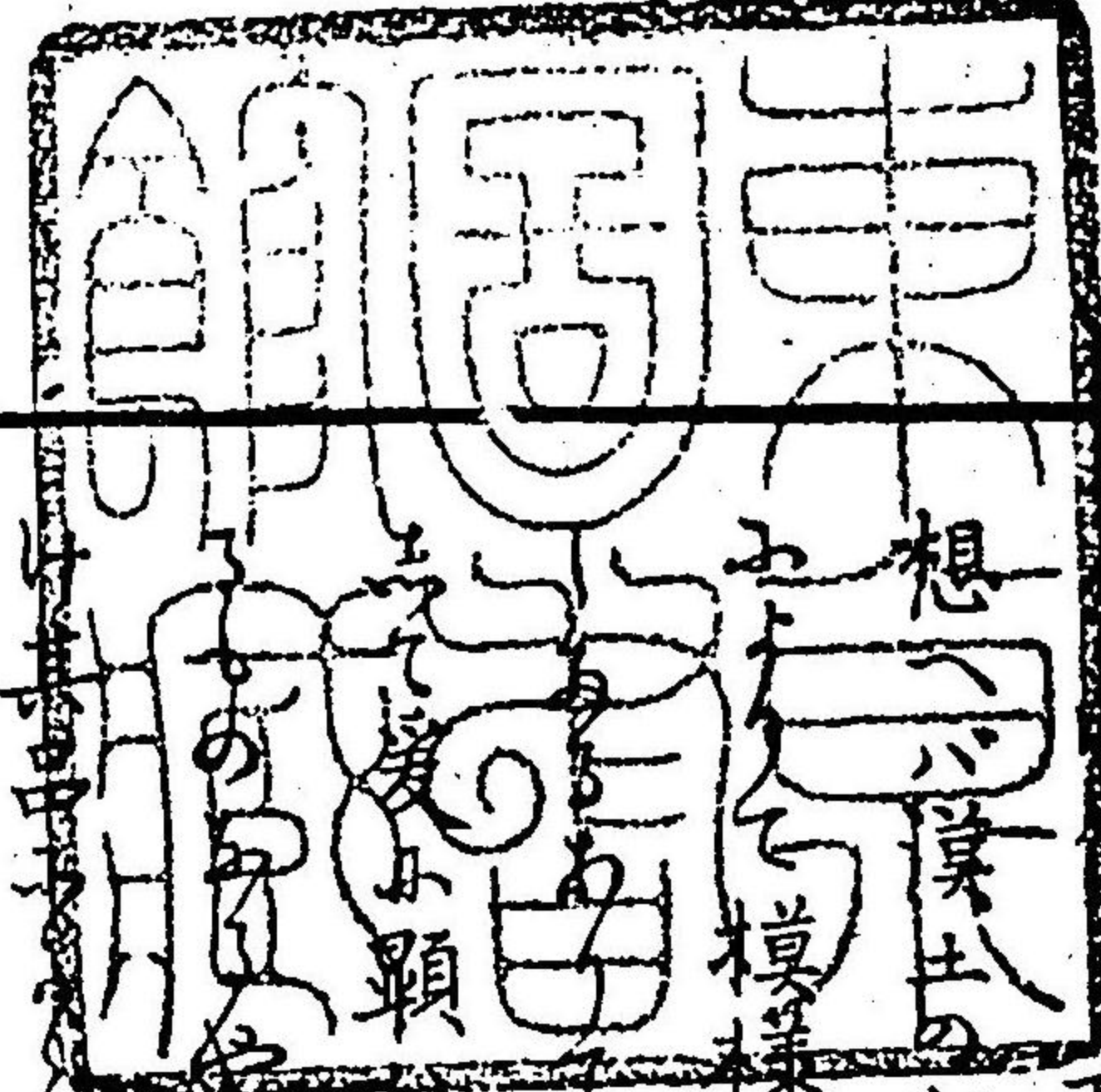
却て惑を起さる恐れあり尚後不至りて一ツの部を設

け其申す年号不至る迄詳細ふとるべき

一古銅ハ和漢を論ぜず目利の第一心得とる處ハ摸様の如何あり又

摸寫物ありとも極めて古銅あるものを摸しよるや將た中古の物不

て真ありや其物の摸寫ありや何れも古への時代ありし摸様を知る



の外あり第一ハ形ち第三ハ銅色あれども此ハ六ツケ敷くもふて口述
ありされハ尤難く去乍うらやま固小頭も慶の説明ふ就て見る時ハ多少了
解するふ至れり故ハ尚其後實物を見うふ際して多少得ると云
わらん

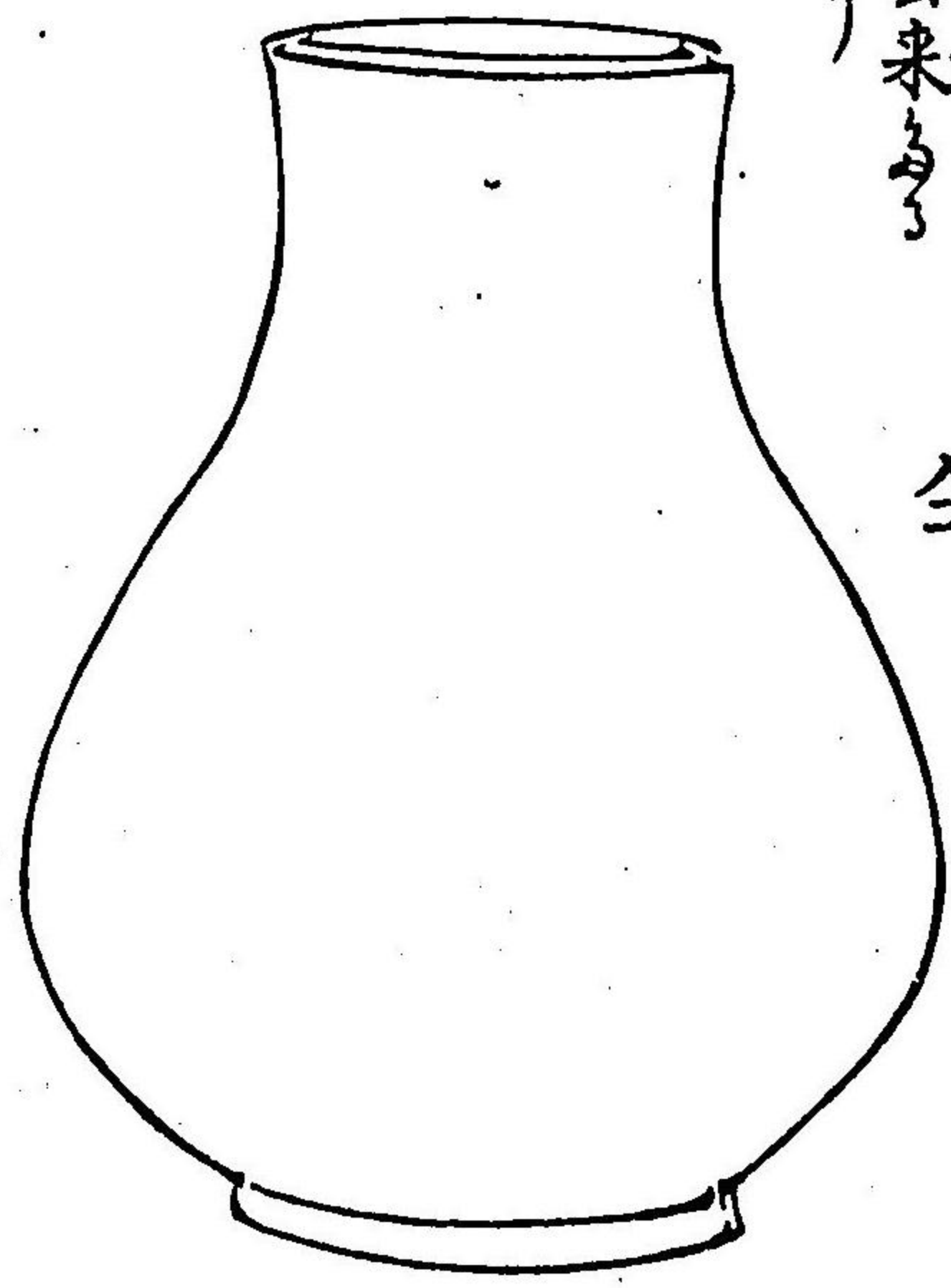
花瓶之部

古銅花瓶



支那の国号
元の始めふ出来ども
あり此形あり

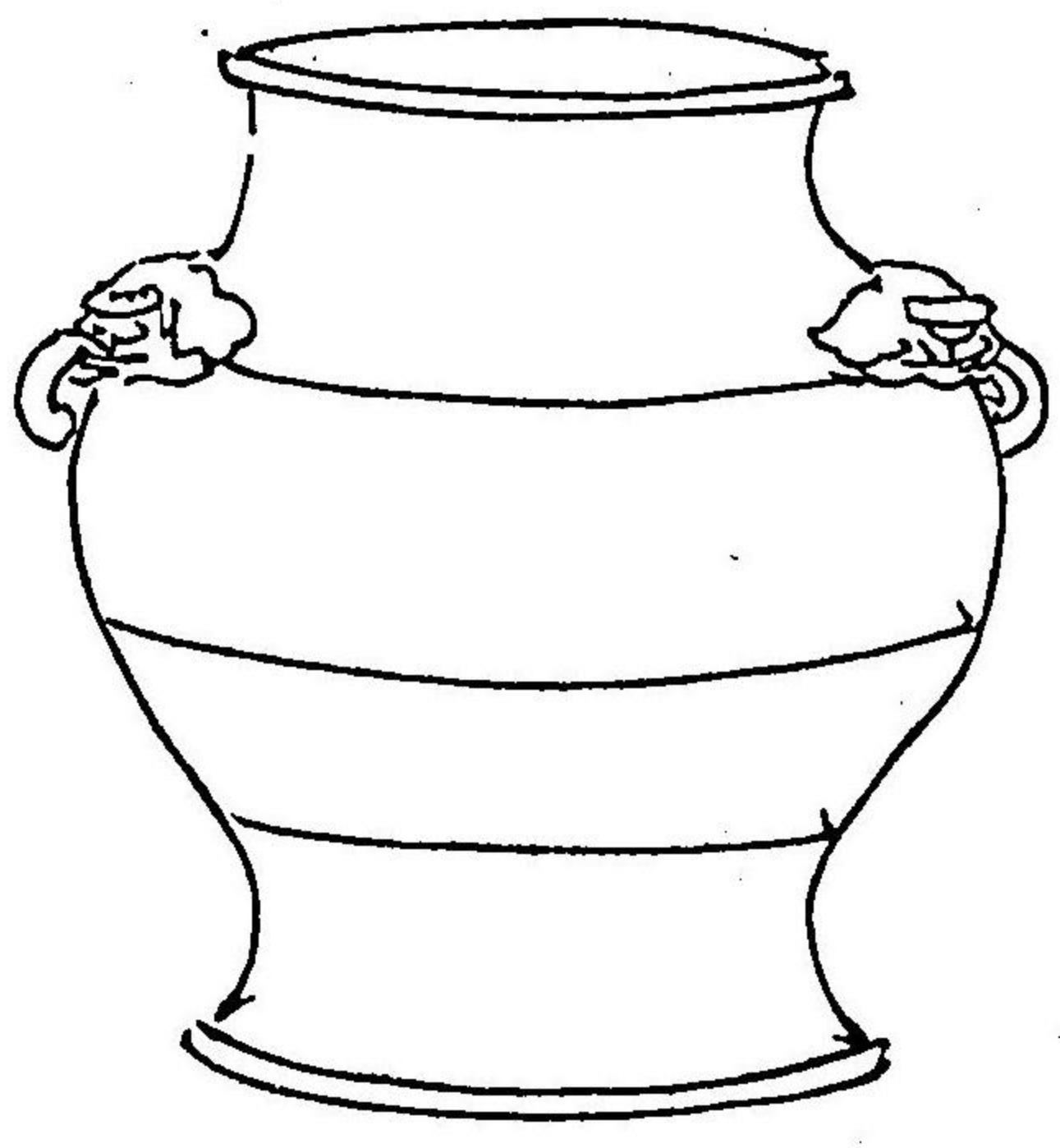
全



全

支那国号

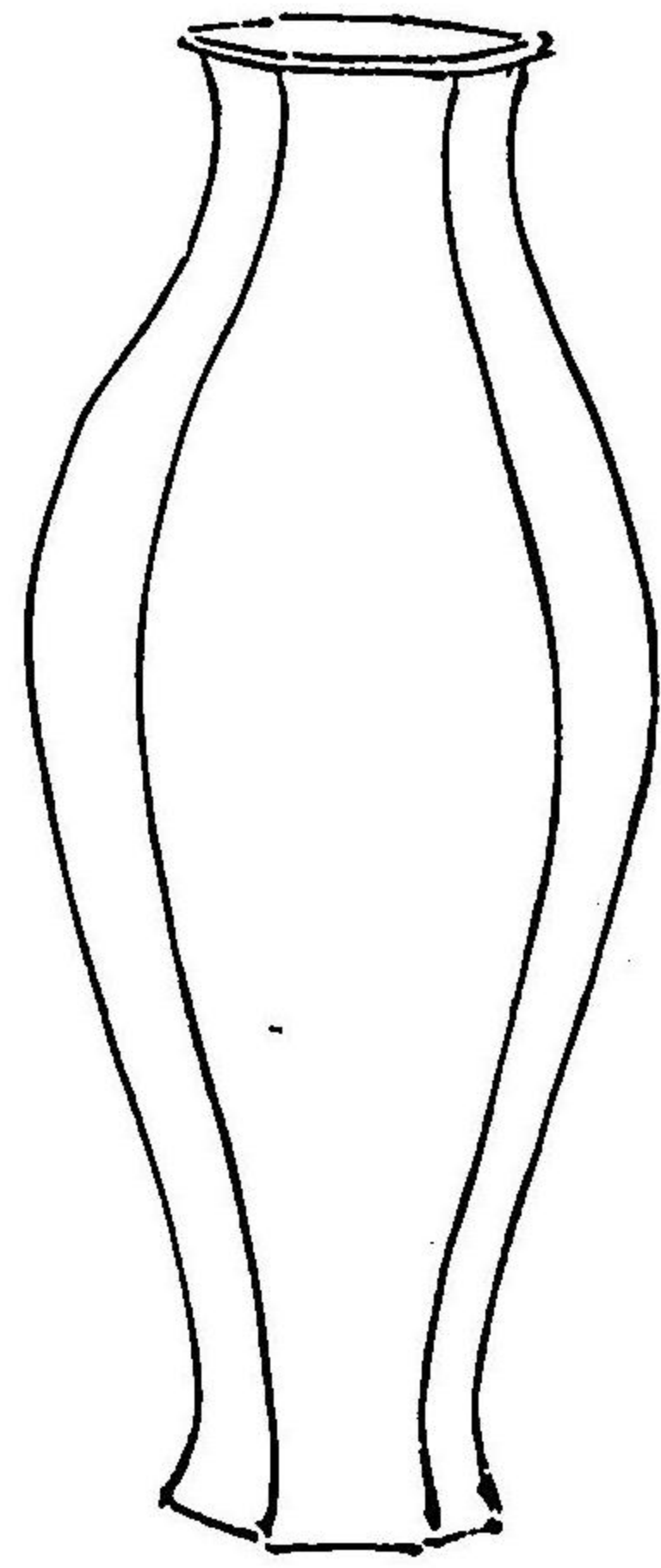
宋より元の初代迄ふ
出来どもあり此形
あり



全

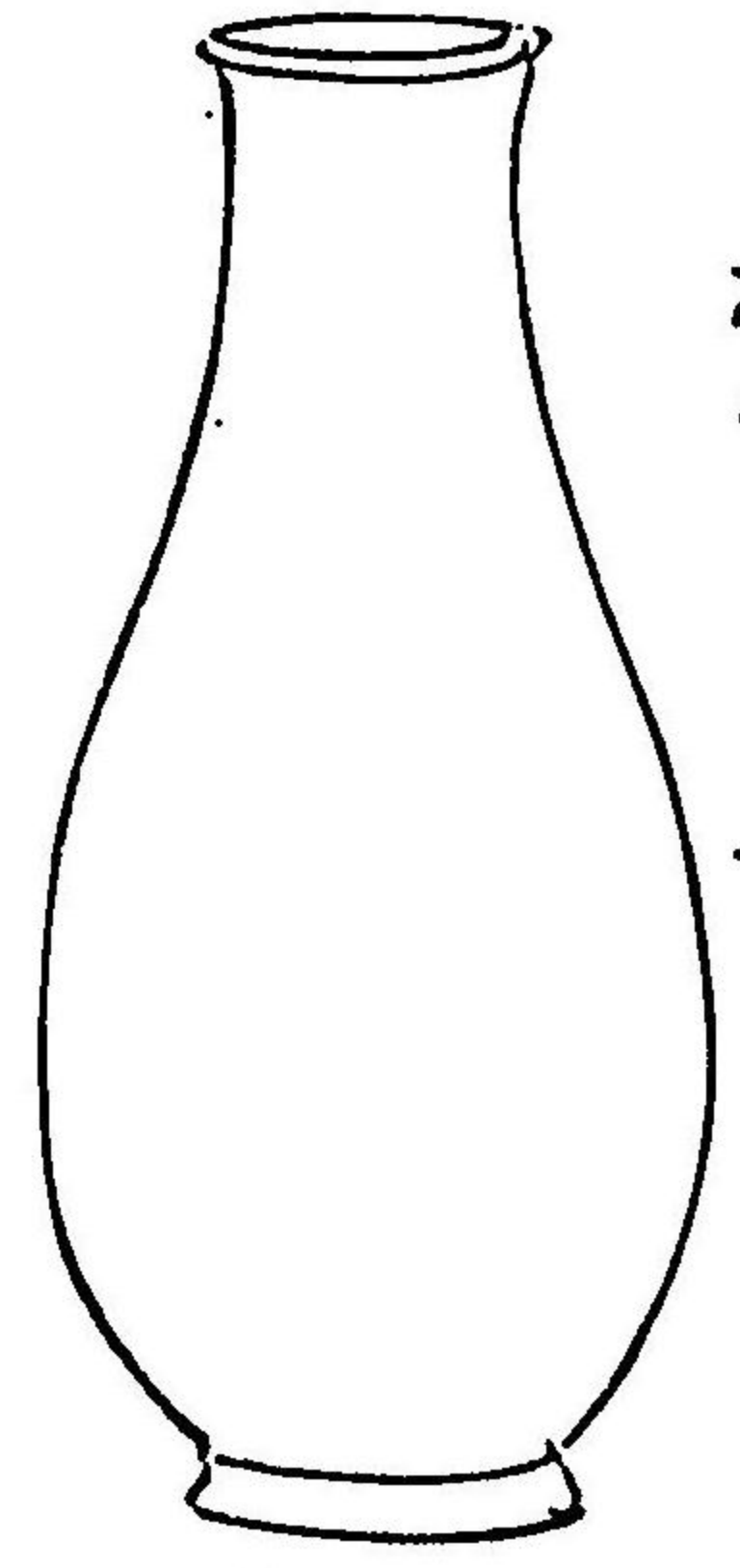
宋の末世ふ出来どもあり

此形あり

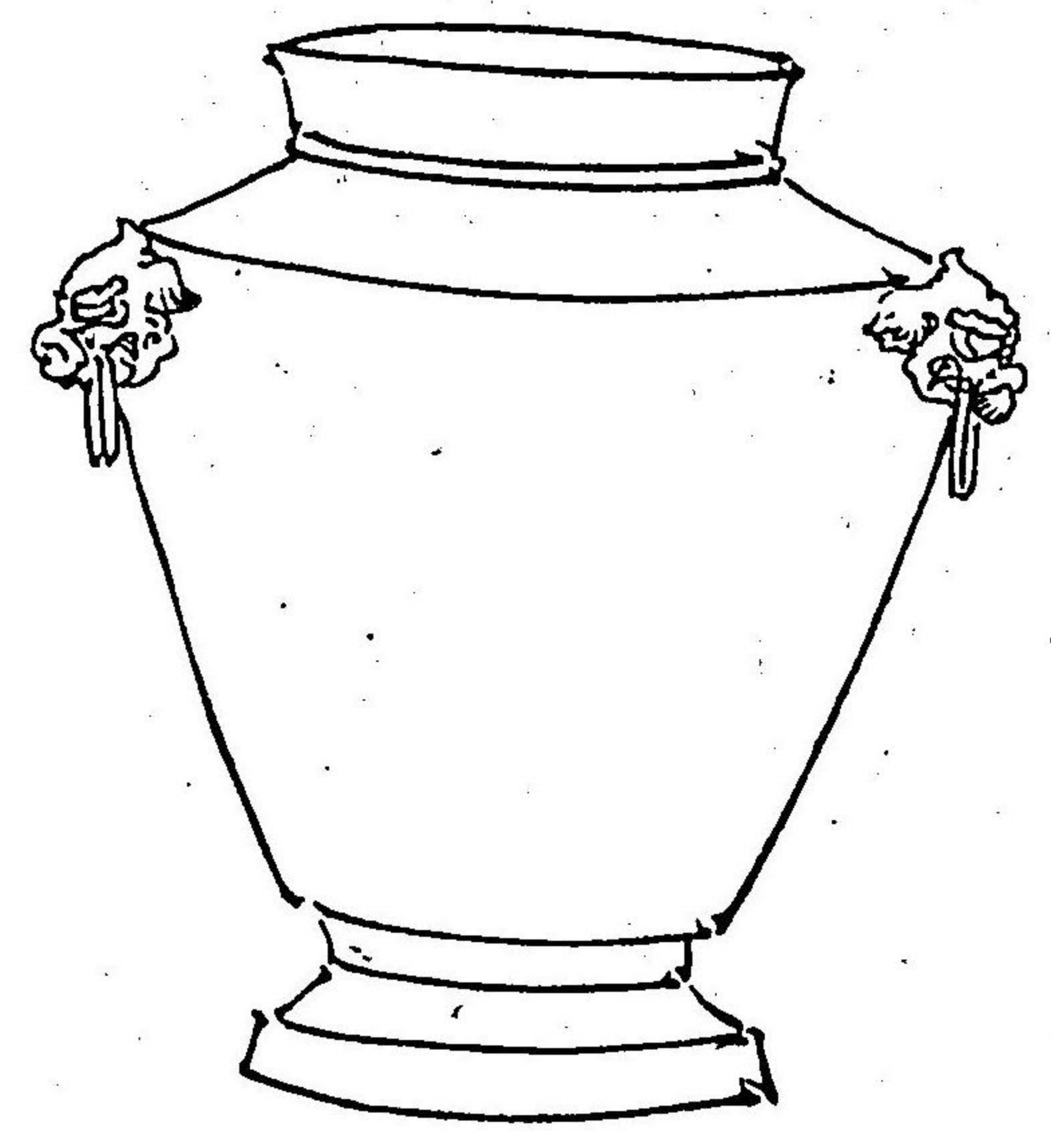


全

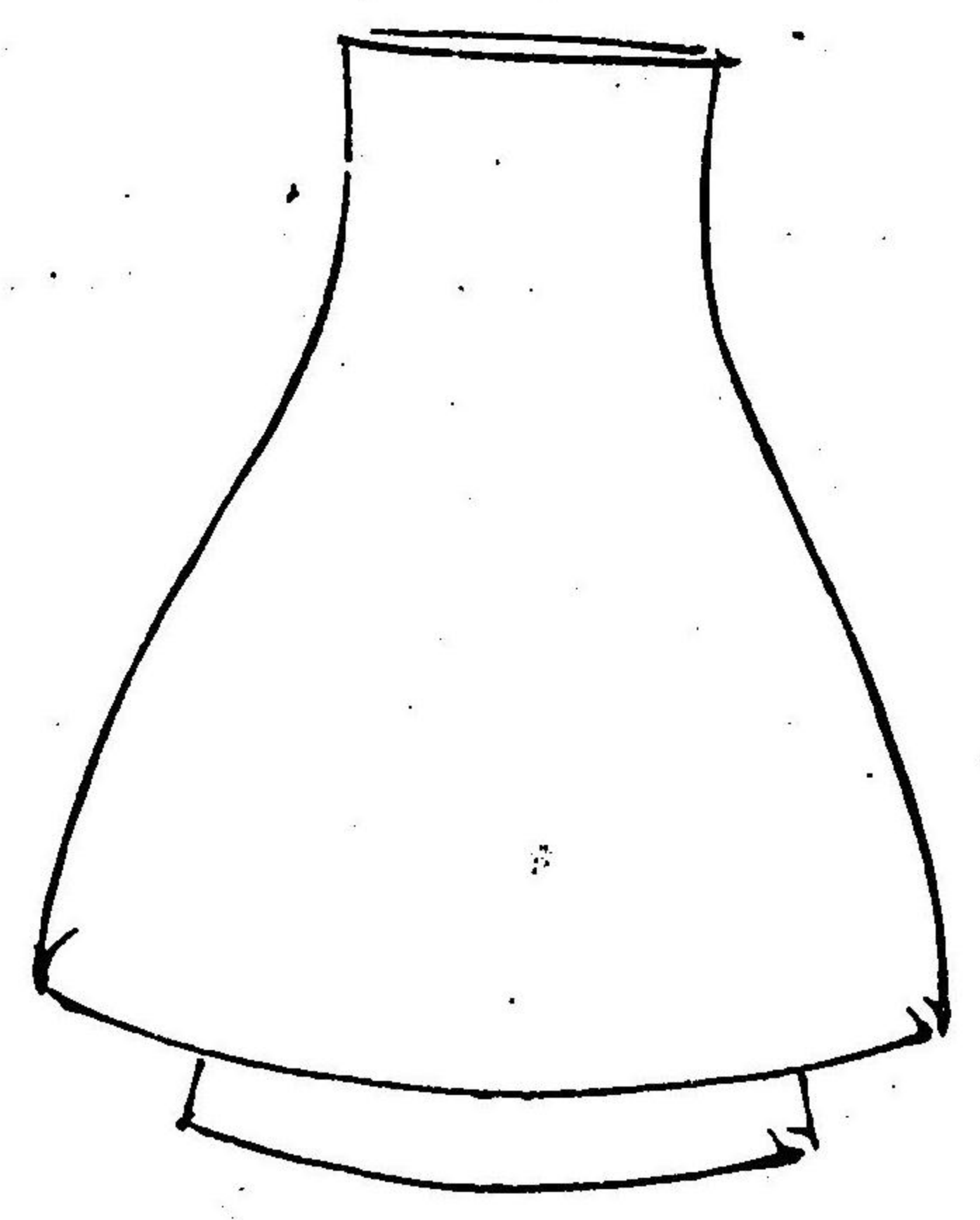
明の初代ふ出来どもあり此形
あり



青銅



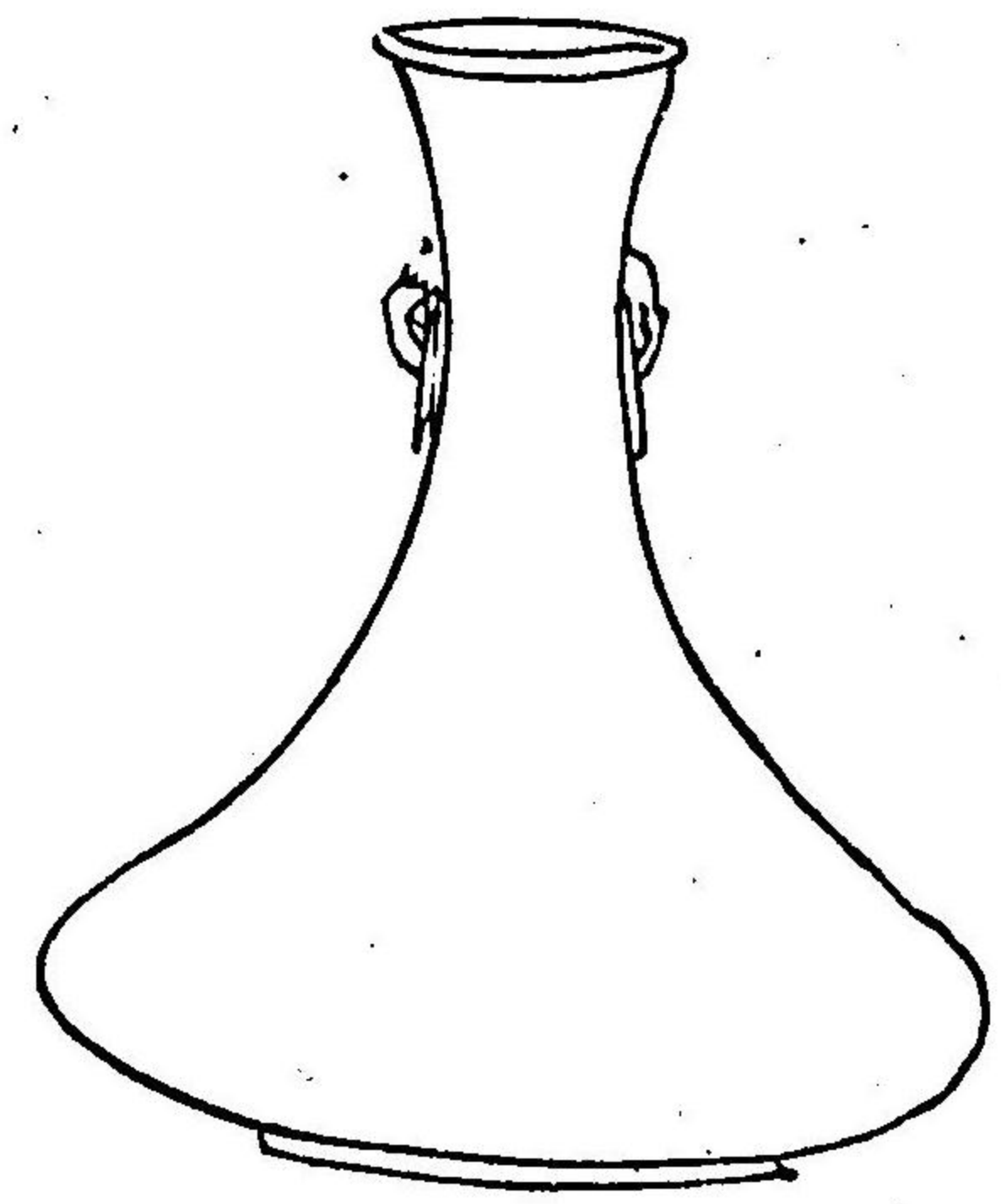
宋の末世頃より元の代は青銅の多く出来たるものあり併此形ニツとも明の末世に到るも尚多く鑄るものあり清に及んで續々此の模造を鑄るものあり



全

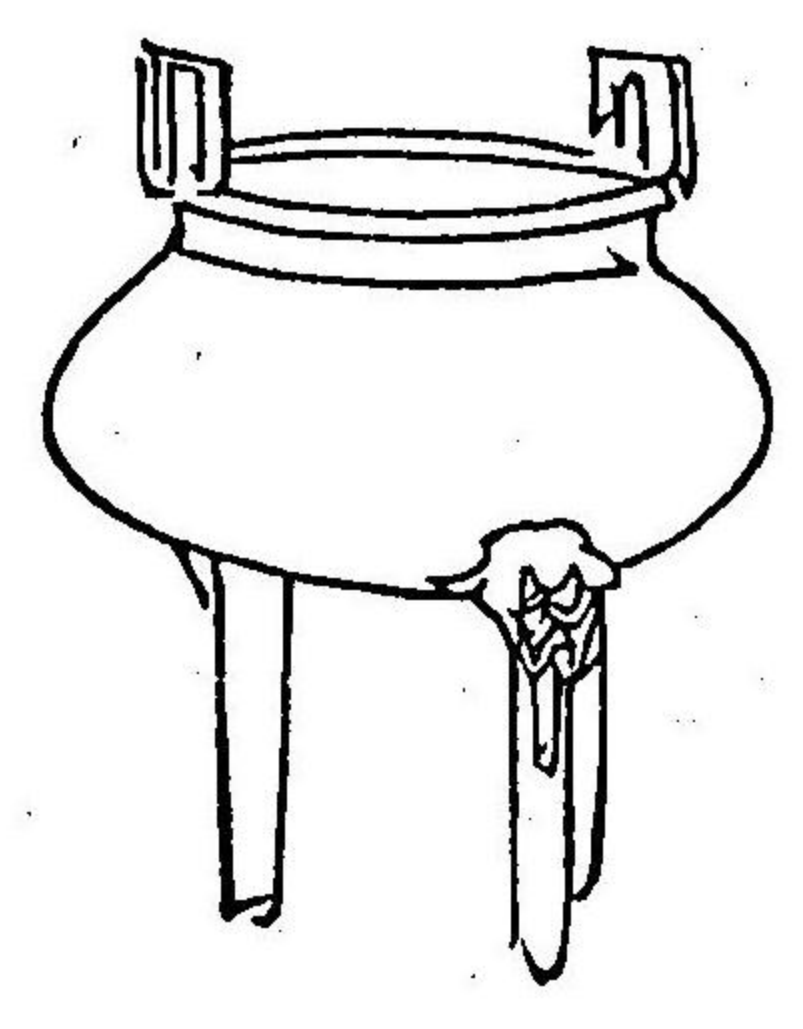
古銅

此形あるものの中古の品多し何とあれハ明にありて造りあるものも云へり

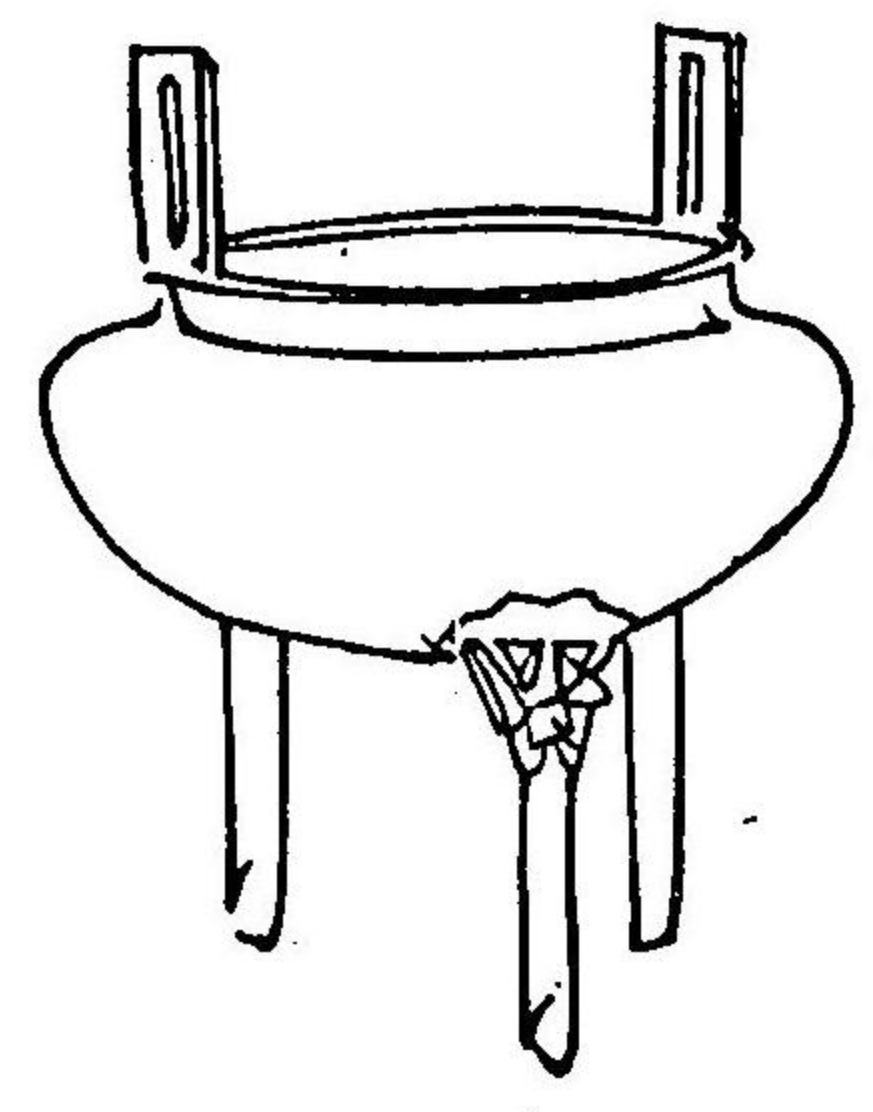


古銅と云ふ年數の度あるものふて明製のものふて古銅と云難しと云へり

古銅鼎



甲



乙

一口の銅器及銅像などの千渡古びあるものを見れば皆此を概して古銅と云へり然れども古銅と云ふ年数不際限あるものにて古ければ単に古銅云ふものありむとて尤も六ツヶ敷ものあり銅器の元来より唐土を以て多く鑄造あるもの故人々銅器を見る時の想像的あり此の明でもあり又清の初代であるかと云者あり然るも古銅と稱するもの何れも六百年を経ざれば云こと能はざり八百年を経て金紫銅と稱するものあり左れば明の代に出来たる銅器をして何を古銅や貴ぶ可きや宋の初代より元迄のもの此尤も然り製造は唐土にしろ我朝の製もろ印度にもろ陳ふるとその年限を過くれれば何れも古銅の價直に異なりとて尤も其道の入を以て見分のつてものみあり然る尚模様形及鏡の部は照し新古の模様并に和漢の鑄造其如何を知らず足れり

古銅花瓶

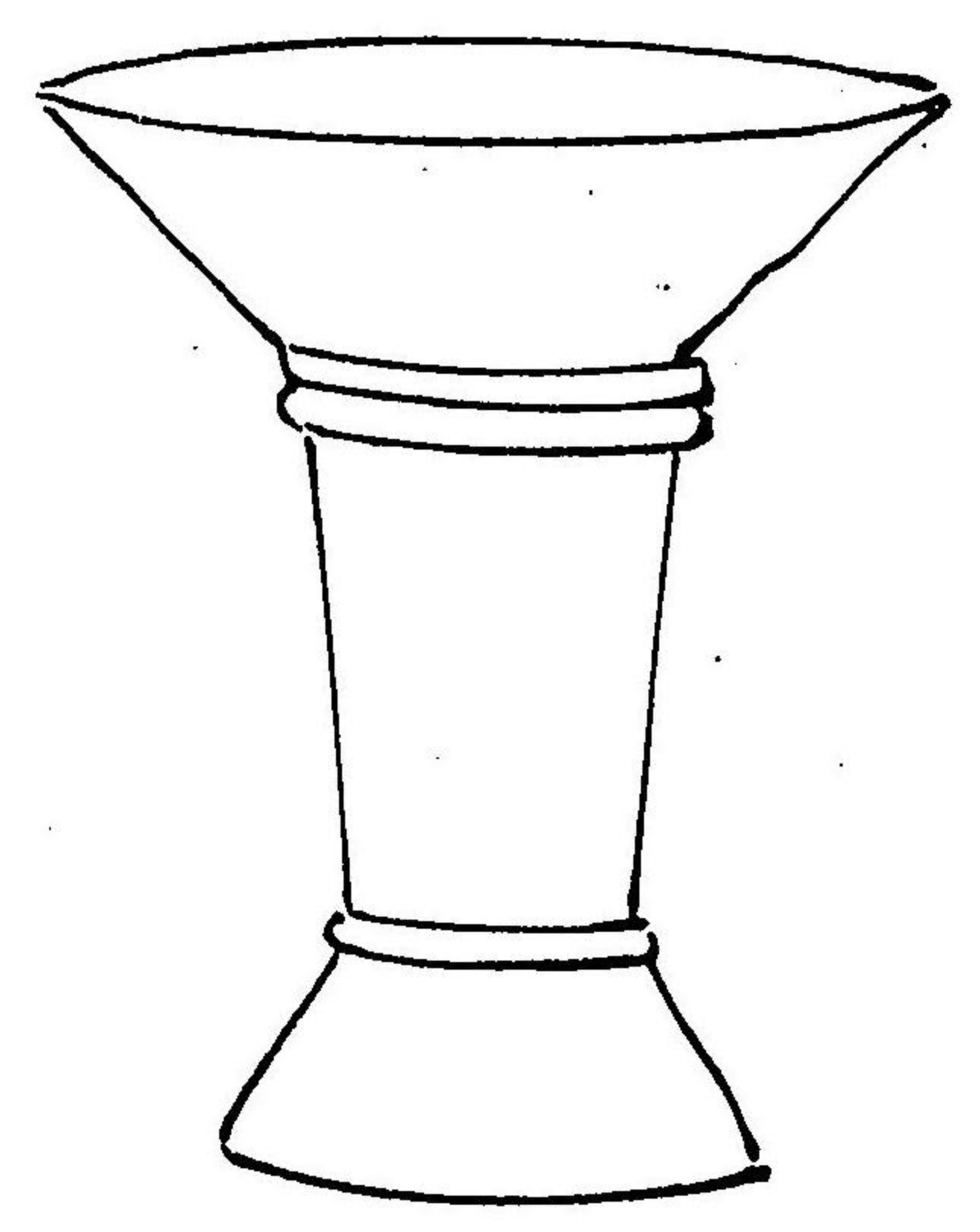
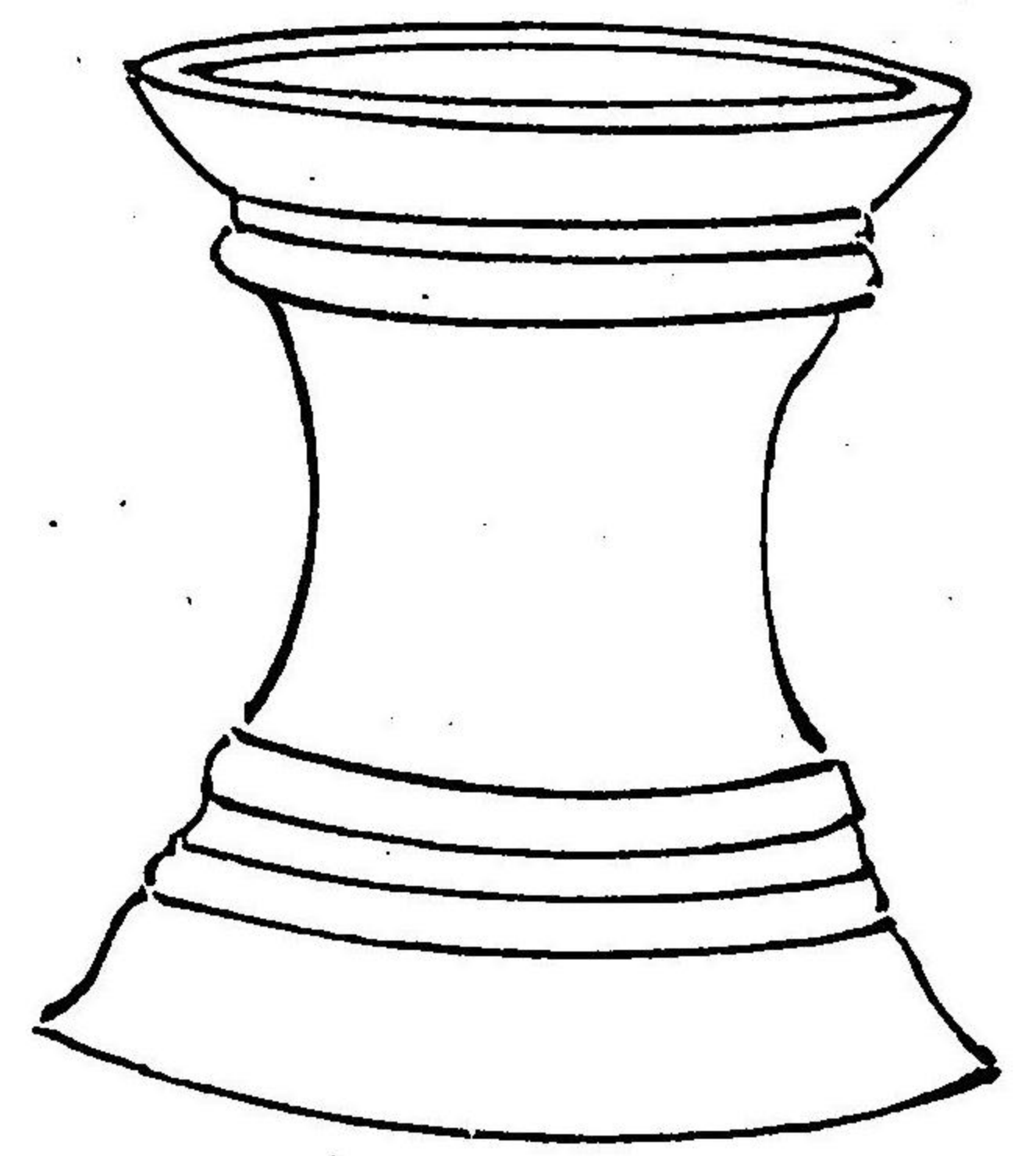


圖不顯しあるものハ子爵前田利學公の所蔵にして古銅中最珍ら
 敷形のものにて見る人元の初代にてありと云説ありむも元
 の初代より末世迄出来あるもの青銅ありて青銅風のもの
 多し左れば此花瓶も亦て青銅の趣あるものありより年度時代不
 於てハ大いなる差あるまじく思はるべし
 銅色にて時代を見るハ中々六ツヶ敷ことにて一々其物不就て口傳せ
 ざれば容易不解し難きことあり
 目利もろふハ第一自然の古垢あり又付偽垢ありを見分第一六銅
 の年経て何となく質を異なりあるを見るの外なり第一ハ新鑄
 のものや虽ども古き所のものを模造するもの多くあれども往古
 の鑄形と近世の鑄形との其用ゆる鑄砂の質及鑄形の造り方
 不違ひあるが故に一見して分るものなり

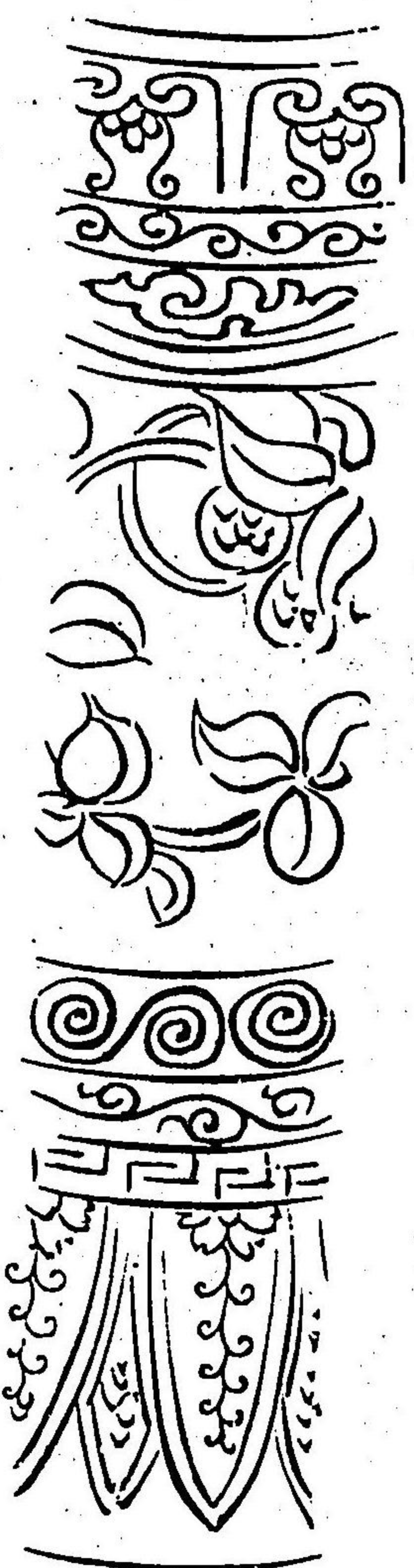
古銅

青銅花瓶

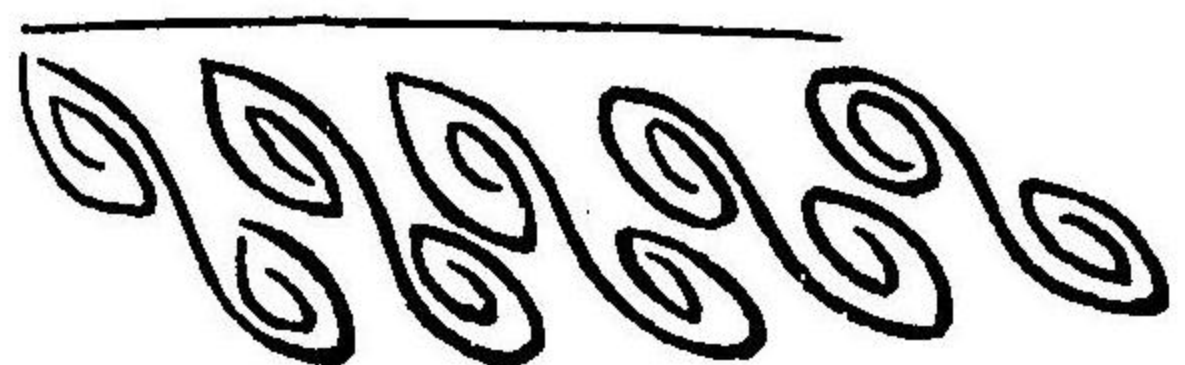
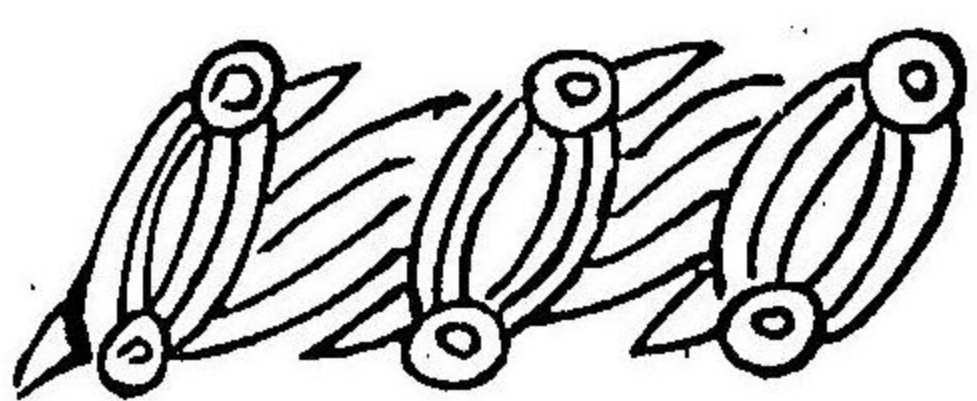
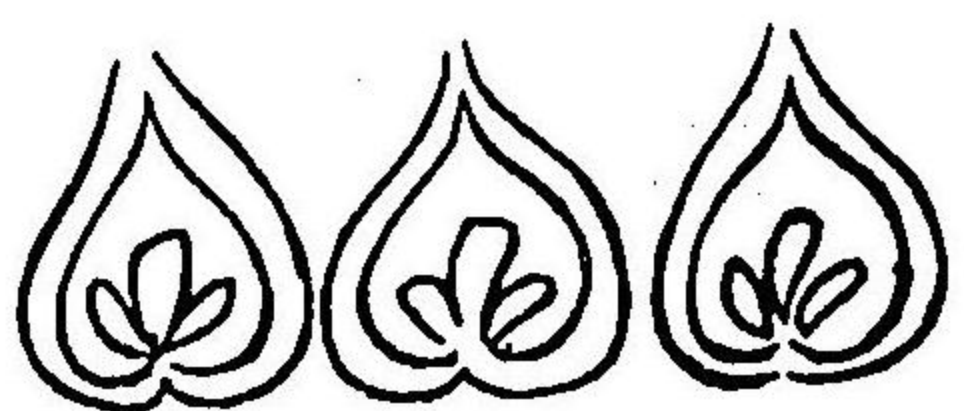
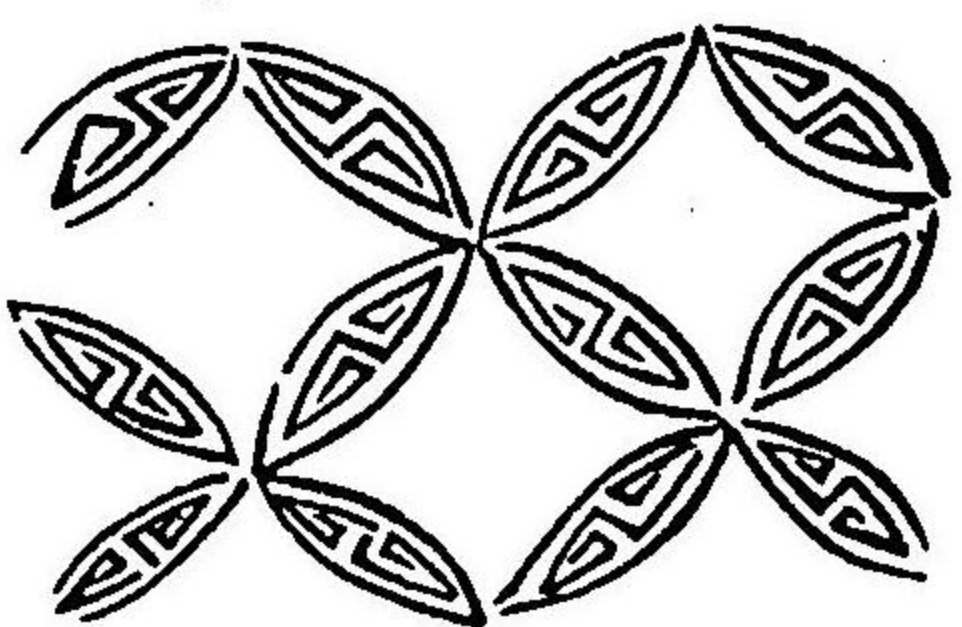
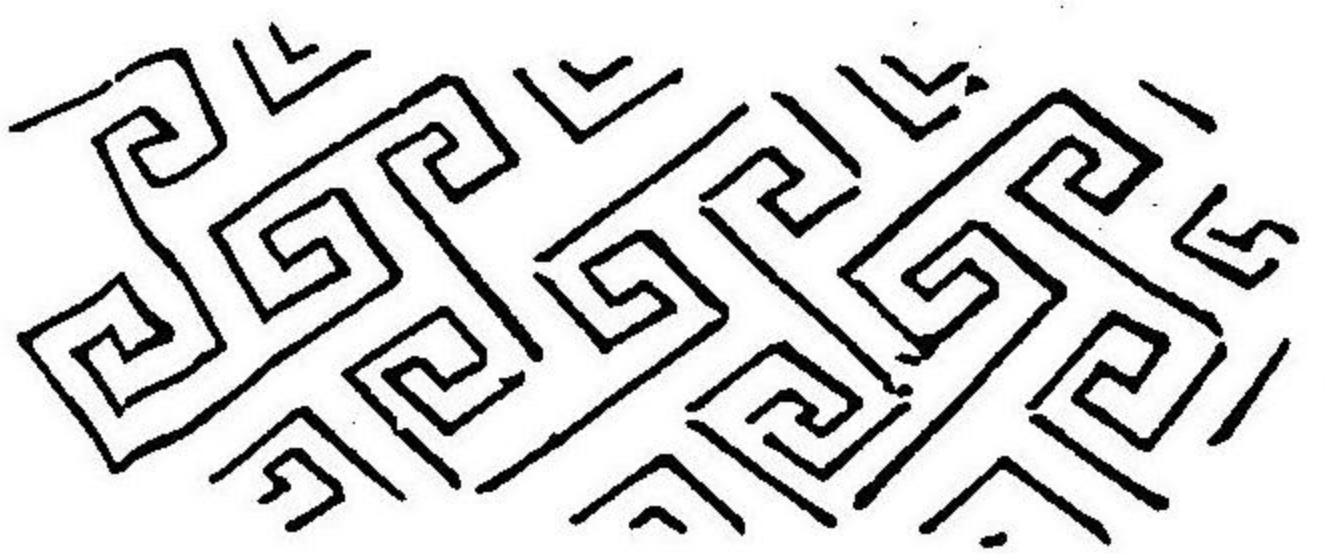
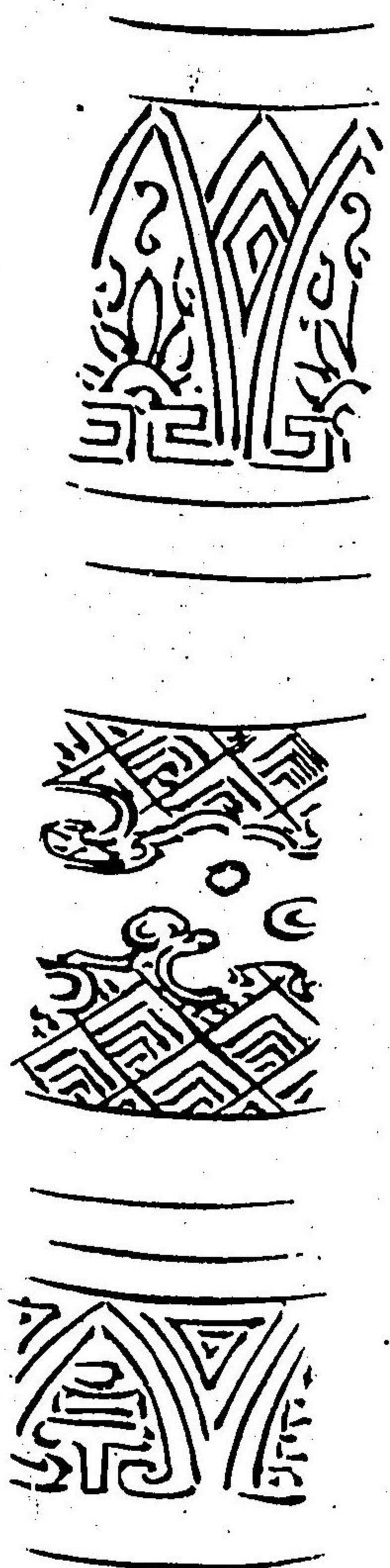
香爐とわれども是ハ造りも時其為め鑄あるもの
 あらざる後継手不用ひあるものと思はるべし



古銅の方此の模様あり古銅のてて図の如き模様あり和製あり
んとの説あり

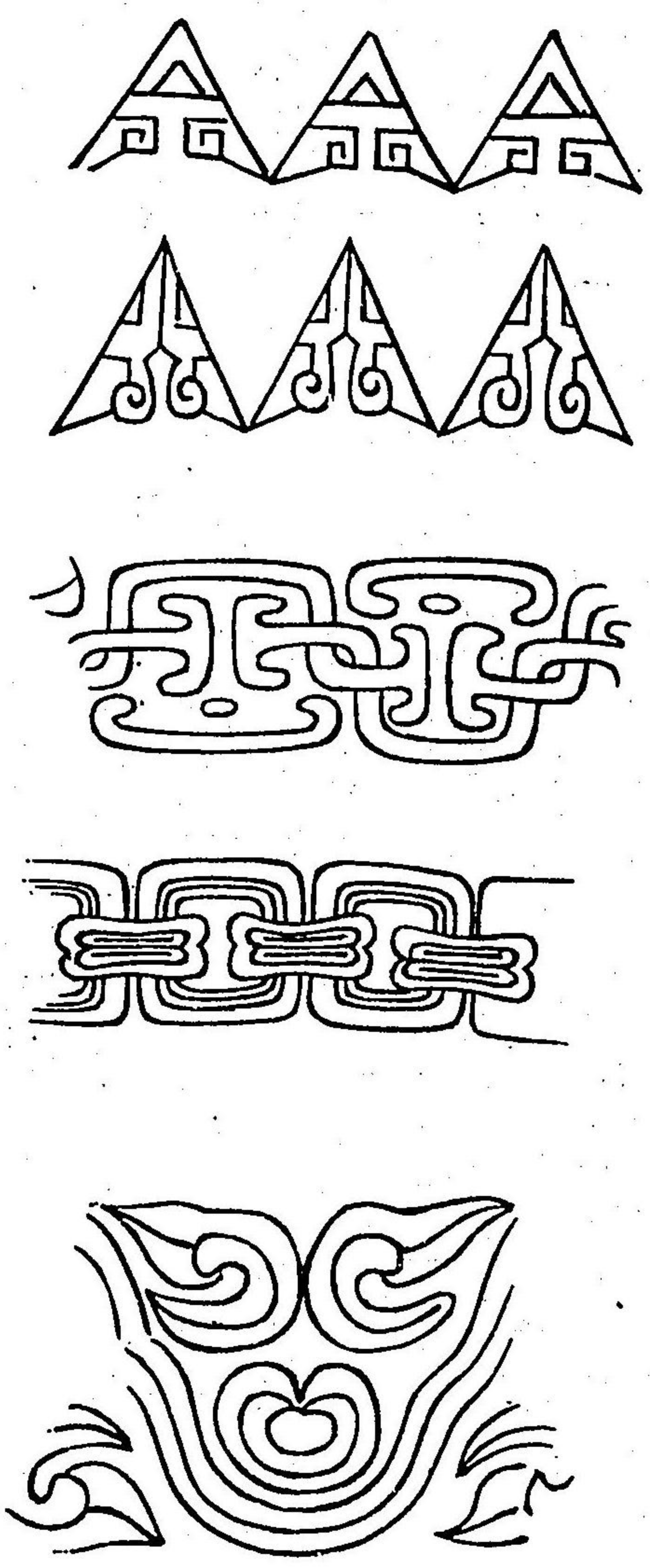


青銅の方此の模様あり元の末世迄ふ出来ありとの説あり

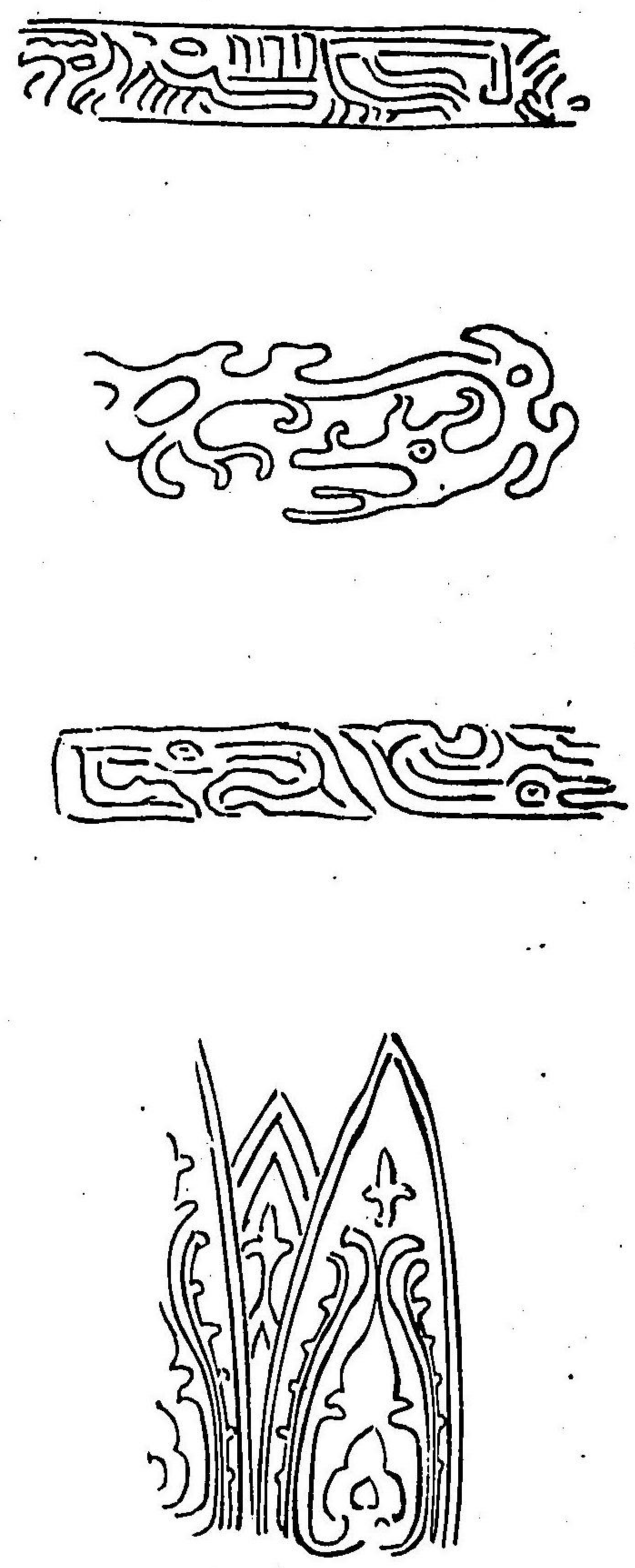


此模様種類のもの古銅又ハ青銅あり此の内七宝ハ中古のもの
より多しと云説われども元年代ハ出来あり呂不克^よ見受
る様小思りる其他ハ真の古代あり

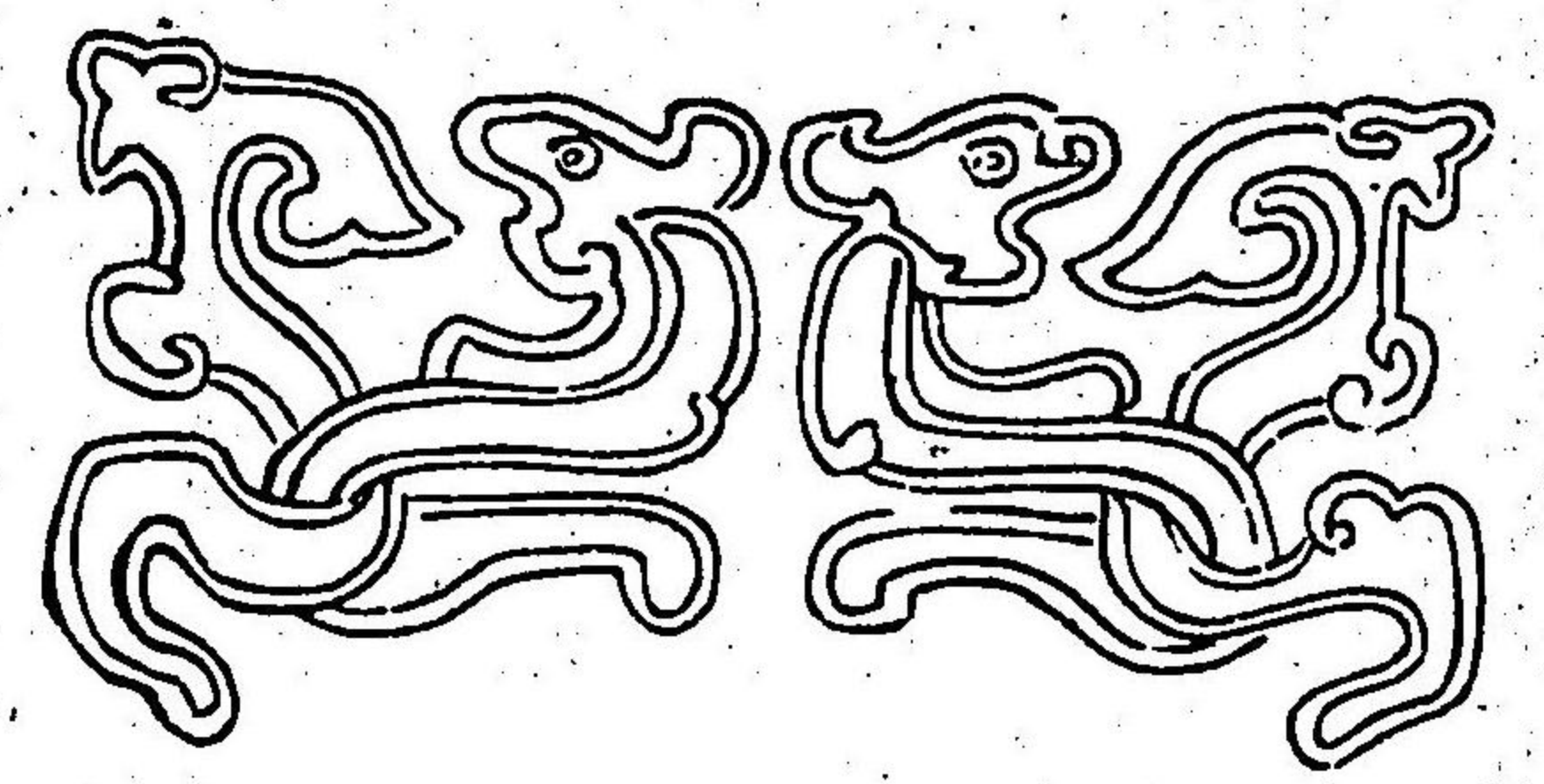
何れも古代の銅器模様をれば前後の區別つき難し併し
上の二形迄ハ極めて古し第三の形より其次につくものあり



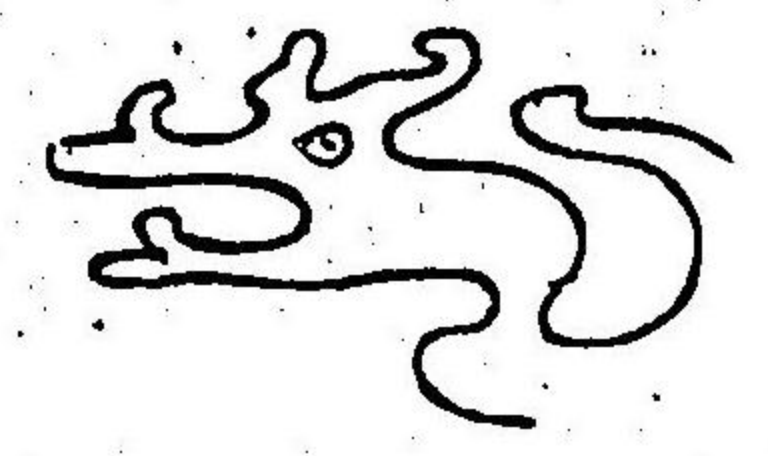
去りてより最下よりある形より古し極古代の銅器のみ見受
しとあるものあり尤も種ハ花瓶壺鼎等あり模様と知るべし



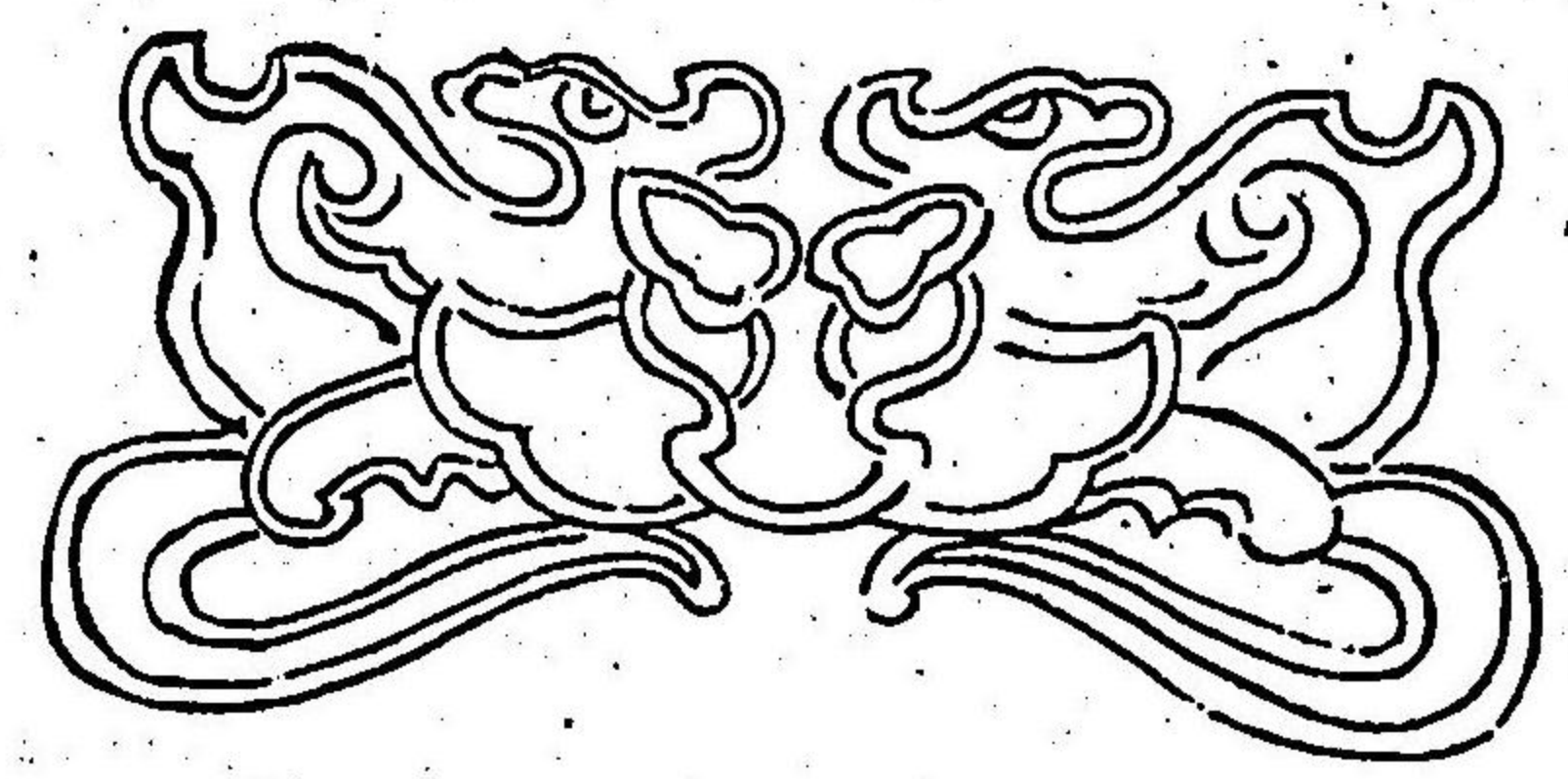
此の模様ハ上の二形あり尤も極めて古し其起り古鏡あり第三
の形より花瓶壺等の咽喉又ハ頸あり模様をて最下より
ありハ花瓶あり腰ハ鼎あり又ハ頸ハ見るとあり



此の模様ハ龍形とて古銅青銅の花瓶又ハ鼎あるの洞ありしものにて此の龍形は進化してこのあり



故ハ中古のものと其形より判明せり元



此ハ龍形鬼面にして上の図より龍形進化し龍形鬼面を粧ひしものあり故ハ此等のものを最も新しきものと見よの外あり進むハ随ひて目さし風致もまじり模様とあるものあり

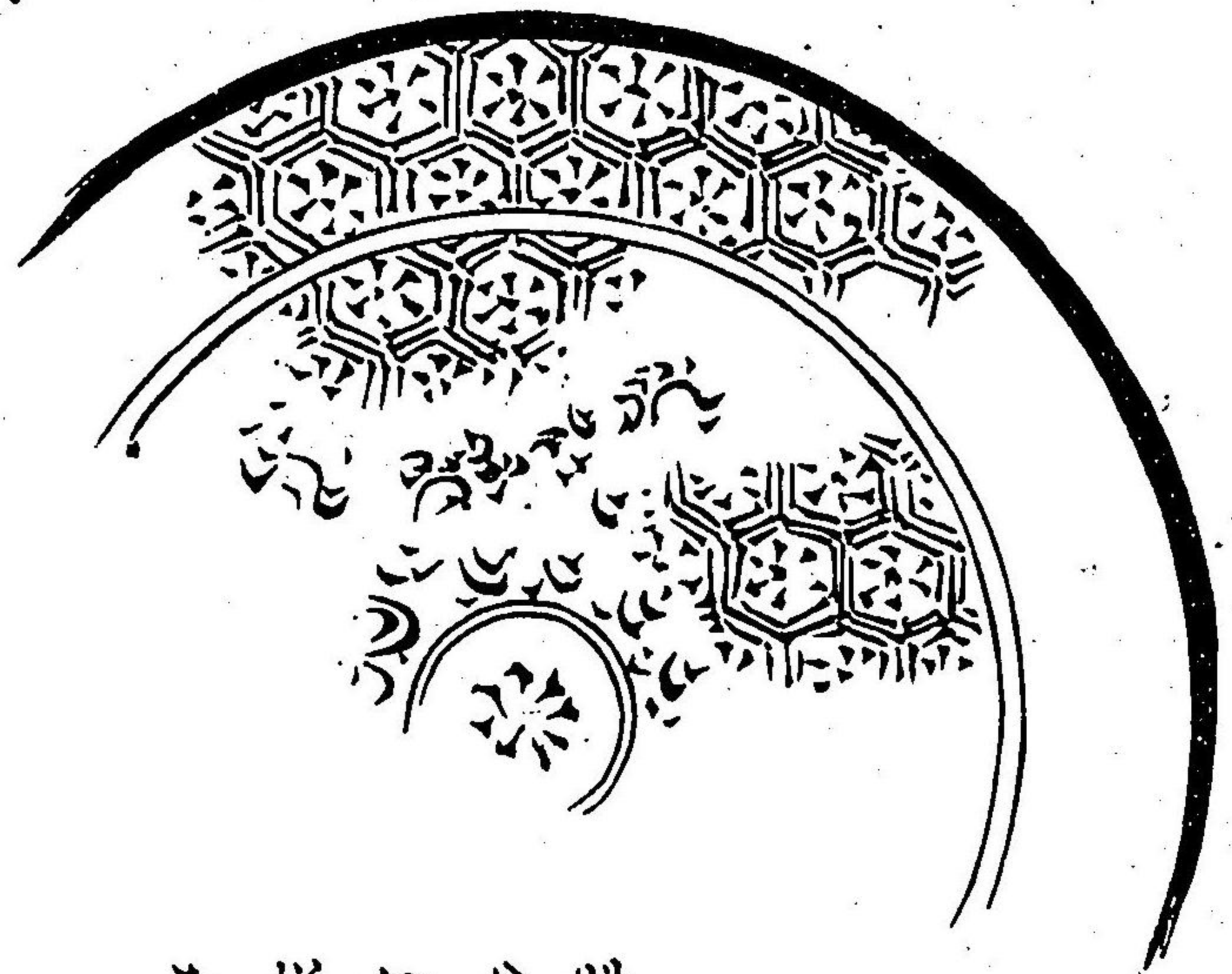
形ハ雲休鬼面龍形なるものあり後よりハ混じり龍形鬼面なるものあり

古鏡之部

一鏡ハ最も太古より傳りしもの數種ありと何れも人のよく知る所あり左レバ古銅如何なる模様ありや又何時代何の裏模様ありや和漢の製法如何なる處をどう見分るや心ある人と雖も其模範とある處のものあるに於てハ此を見分る能はざるものあり故ハ古銅不志より時ハ第一古鏡より銅貨の新古古垢又鑄より幾年を経るものあるを求め外に左とれば自然に得る所ありて鑑識の一階梯ともあはべきあり

古銅ハ最も器物の種類多きものハ我朝のわれ漢土のわれ其古物とて見る處のもの模様の起る所又模倣とて何れも古鏡より寫さるるもの併し一目にて製和漢を見分るハ模様あり模様ハ年度よりては形を異にするもの故何程相似ものありとも和漢の區別に至りてハ云を待たざる所あり

古鏡



此の模様形あるもの漢土の製
もあつたものみれども亀甲の散ら
しつゝハ見あつたもの中ハ亀
甲あつとも縁のこふあつ又ハ模様
中區郵まで頭一わりのあり

此の比翼模様
ハ漢土の風ハ
似ても和
模様
あり



和漢の模様見か
第一唐州のありて
図の如き意の
打込風あるハ和製
の古鏡と知ハ

此古鏡の裏面ある一部分を爰
小頭と云ふものハ孔雀ハ漢土の
鑄造也此の模様あり併ハ花
唐州の至りし和模様の風あり
中ハ孔雀のこを比翼模様ハ
さつ漢土製のものあり充分
ある處を見かハ実物ハ就
の外あり

此の古鏡の裏模様ハ純然も支那模様みとして中ふハ模寫
品もあれども和製の模寫ハ惣て奇麗ハ一目して見分るもの

カ



古鏡

支那製
の古鏡
みとして
古物を
見分
るハ此
のつん
のもの
尤模範
とせし
所あり



此の古鏡裏面ある模様ハ唐土のもれふく和製のもれあれハ模
寫物よて一見分るものなり



此の手ふとて和鏡あれども新
敷よのふく唐土の正呂本邦二
面の宝鏡あるものとさるべし

最も此の模様ハ花瓶
ふどの頸肩へ模寫
さるる元形あるもの
あり

古鏡二面

此の二鏡ハ何れも延年又
ハ海馬ふとてふ次ぐものあり
唐土の宝鏡あり中古



の呂此等のものを模範
とて作れり

漢延年益壽鏡



図にみる處
の益壽鏡は
その最支那
古代の宝鏡
として古銅
の雲体鬼面
龍など何れ
も此の模様
などの進化
を認めらる

漢天王日月鏡



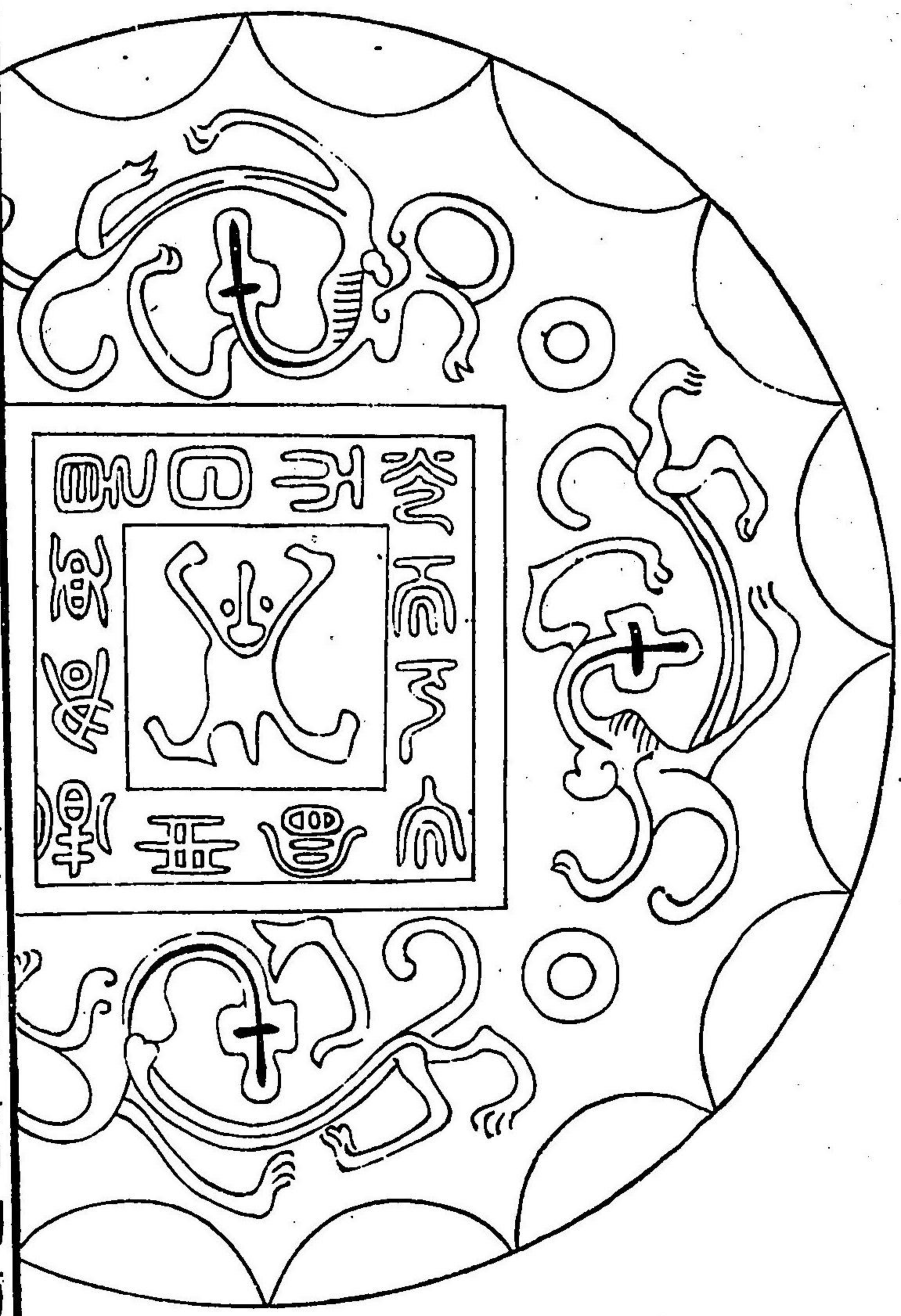
漢天王日月鏡とハ唐土の明鏡ふして最も古鏡中貴き宝物なり元來唐土に於ても數個あるものふあつたれば我朝にて真正の漢天王日月鏡ハ尤無きものと云ふ(併し模寫のもの如何なる所ハ秘藏しあつたこと故に古鏡の龜鑑とて爰に圖をてしものあり

鏡銘天王日月者十二言周一歲皆天王之日月又循環無窮此頌禱之意殆漢宮中物也中作四神四獸之飾間以八柱皆凹下蓋當日嵌珠寶者今脱去耳邊作廻鸞舞鳳紋俱極細質膩如銀朱綠瑩然當屬漢鏡上品此友人王霽塘為予得之任城者考博古錄之二十九亦有此鏡而差小誤稱海獸鑑

博古錄中此文ありき爰に載て參考とせしものなり

漢日光鏡

日光鏡ありしもの延年益壽同様なり龍形ふとの龜鑑あり



鏡 寶 之 唐 古 太



鏡 桃 蒲 馬 海



天
地
人
三
才
圖
說

十
八
卷
之
五
上

天
地
人
三
才
圖
說

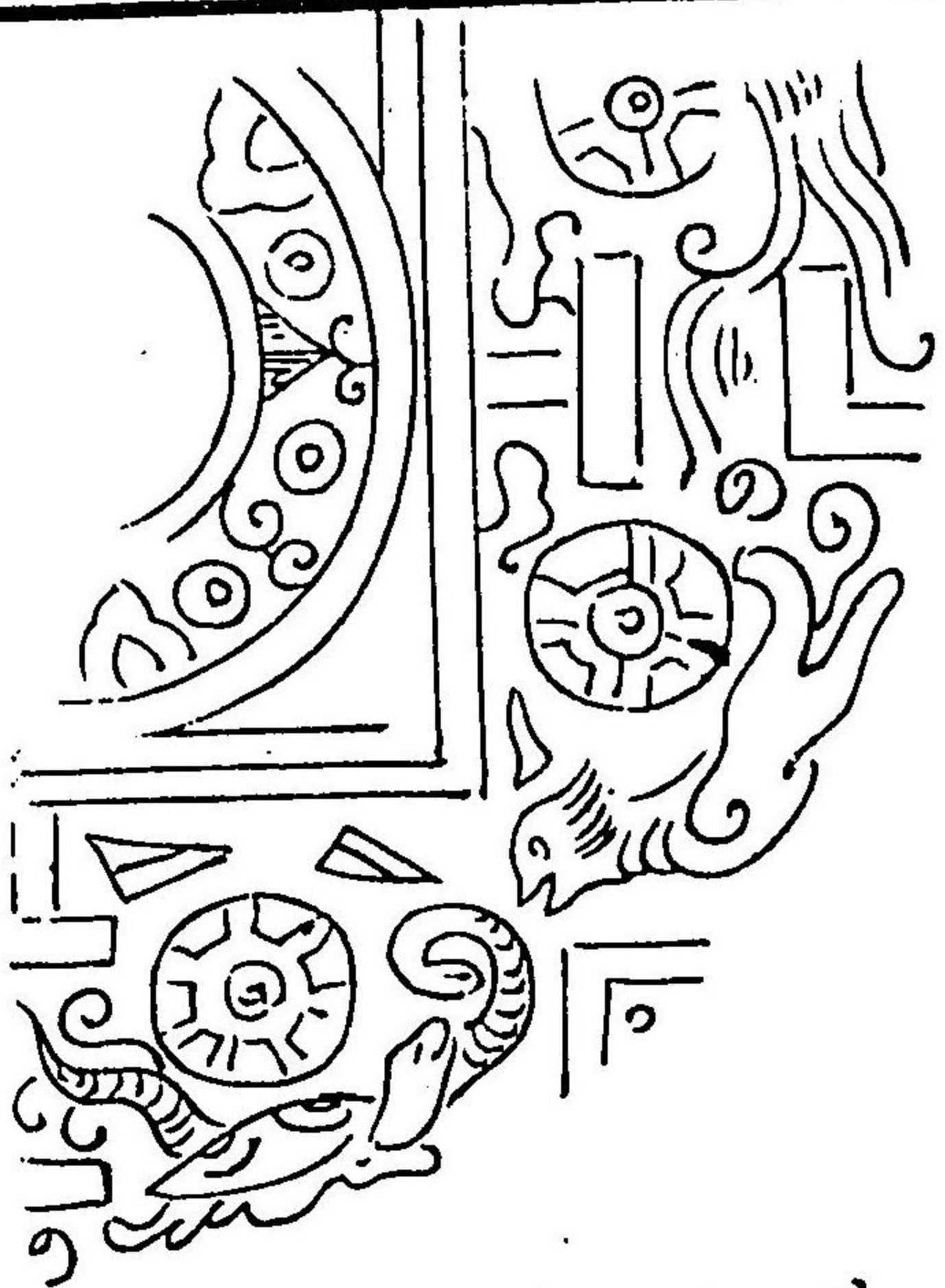
十
八
卷
之
五
上

因ふ顕るものハ最も唐土太古の鑄造ある古鏡裏模様ふして龍形中如何ふも異体充く人の眼を驚うせむものありて中古墨譜ハ陶器模様ふ競ふて寫しぬるものあり古銅青銅其他の銅器類ハ餘り此の龍形を摸せむ織物類縫模様等ハ中古此の龍形ハ寄ふるハあり惣じて此の摸形あるもの何品ありて和漢の製造を見分けんともふハ先龍形全体の具備せむとせむとありて唐土の人天稟手風ハ具備せむとて風致自づから味ある處あり我朝の倣とててユ人何品を作るも唐土の製造品ハ似ぬる處あれども勤くも具備せむる物を造らんとせむも自づから首尾相整ひ更ハ具備せむる處あるもの手風あるもの故ハ其物を寫し兩つあつて相似るものや物ふわづらハ何程摸寫せむ心持つて図の如き龍形ありて織物ふども織と雖も一見眼をとて充知らむるものあり

古鏡二面

此ハ唐土の太古ハ鑄造ある明鏡の裏模様ふして摸寫物ふどあるものあり又摸造品あるもの形砂と其製とふよ

りて見かるものあり



此等の模様ハ銅器のふわづら中古の製品陶器の如き何れも摸範とせむ寫しぬるものあり



古鏡の裏

此今ハ最古鏡ふれども何鏡と云ふ
知難一併一参考と云ふ

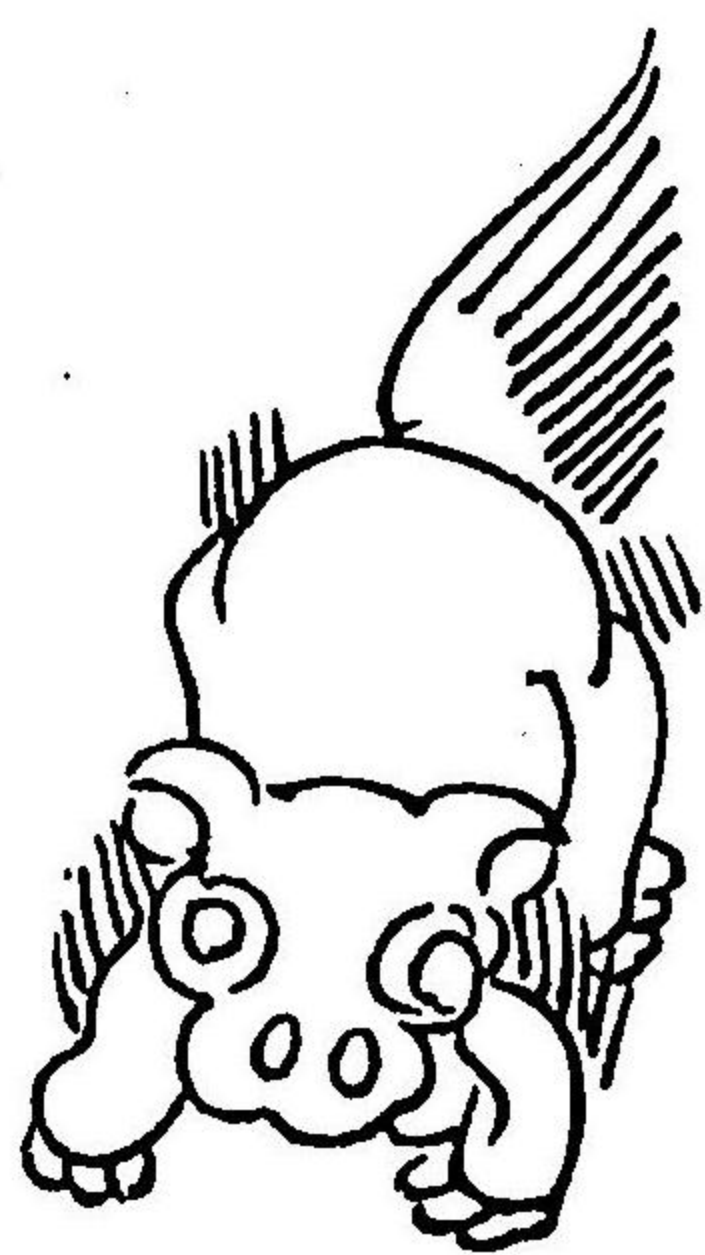
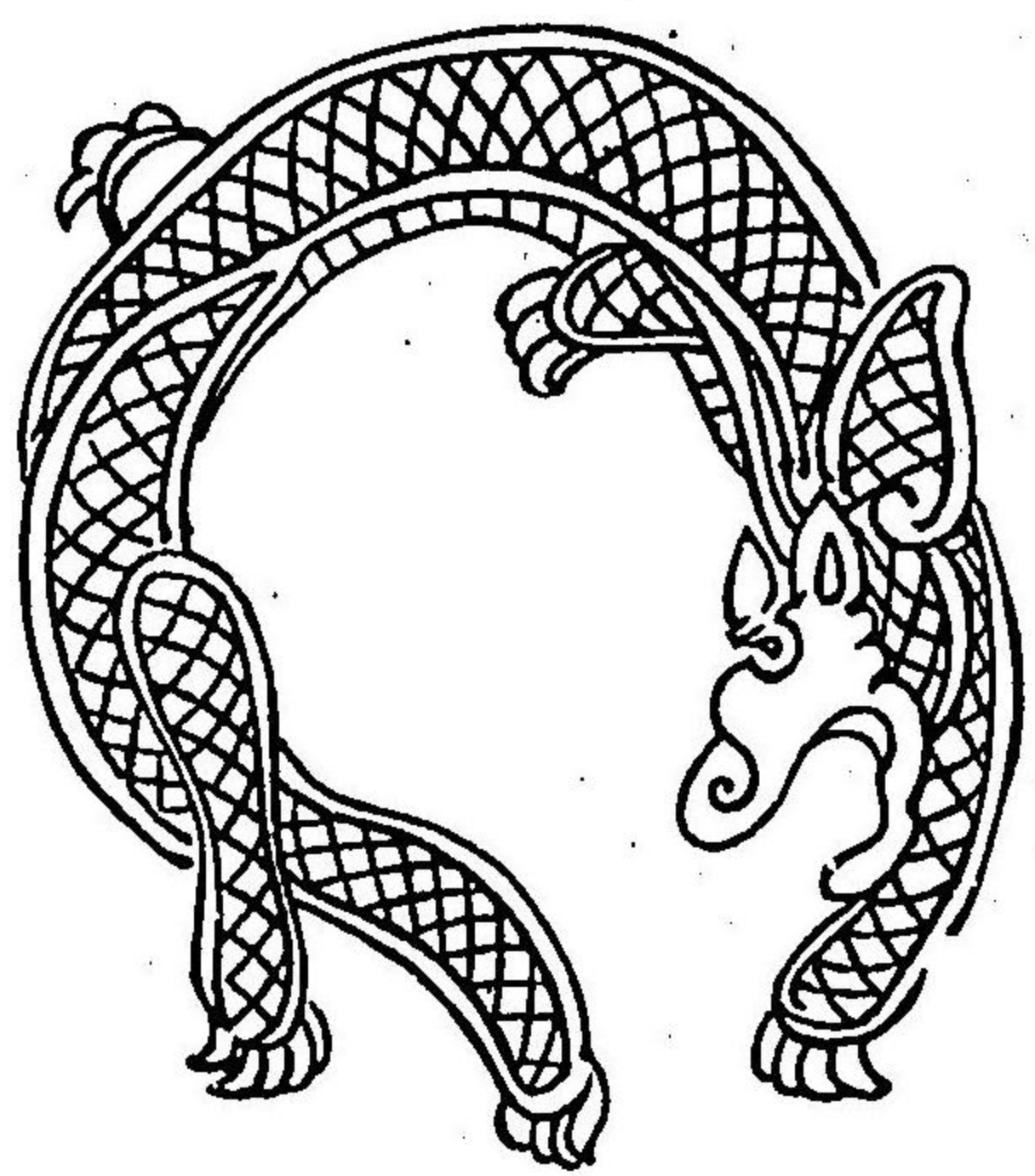
頭もの



和漢とも中古此方鏡を鑄造するもの皆此模様の体小属するもの多し

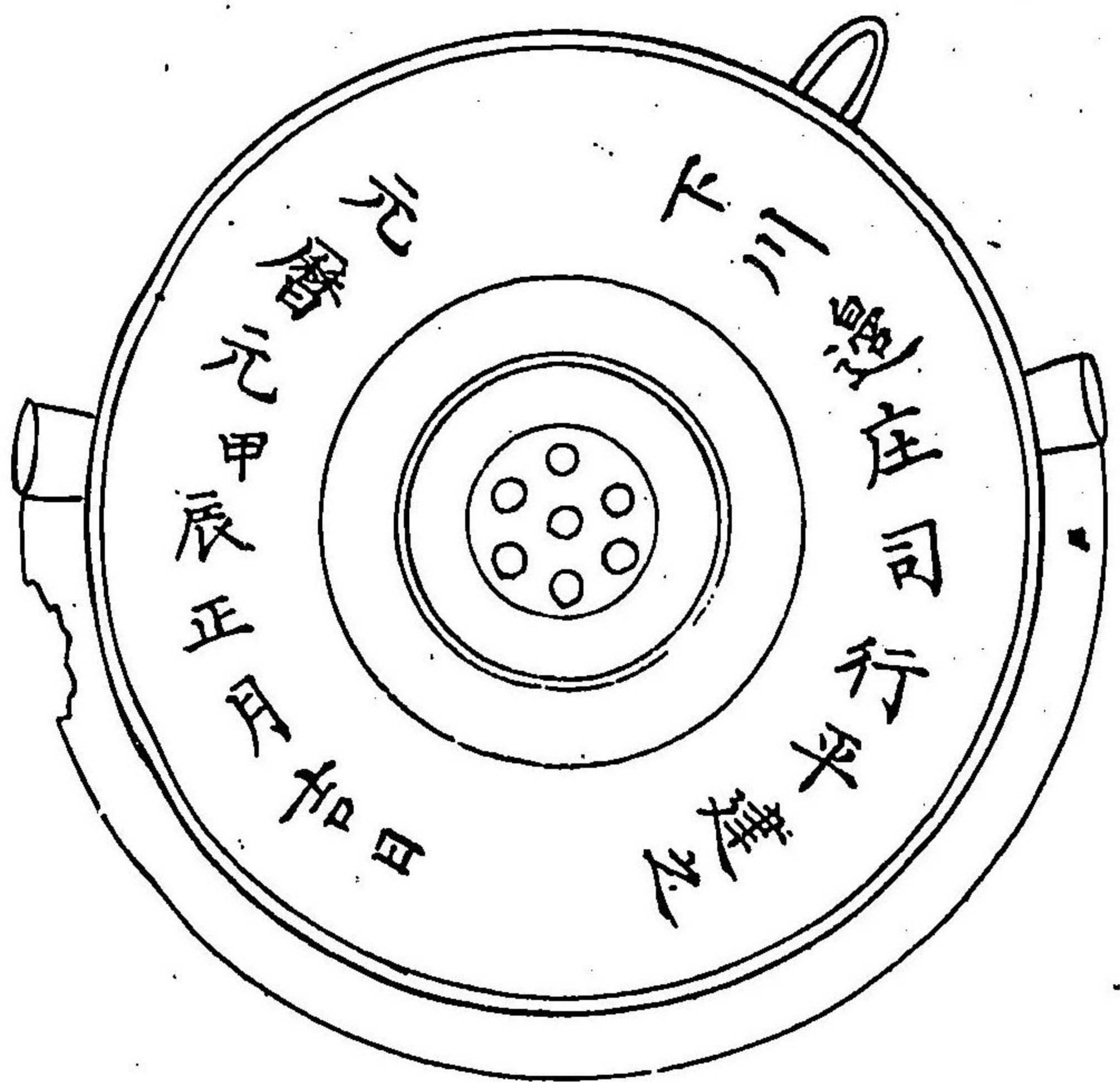


此の模様
の如き何
れも古鏡
の裏のあ
りてもの
あり

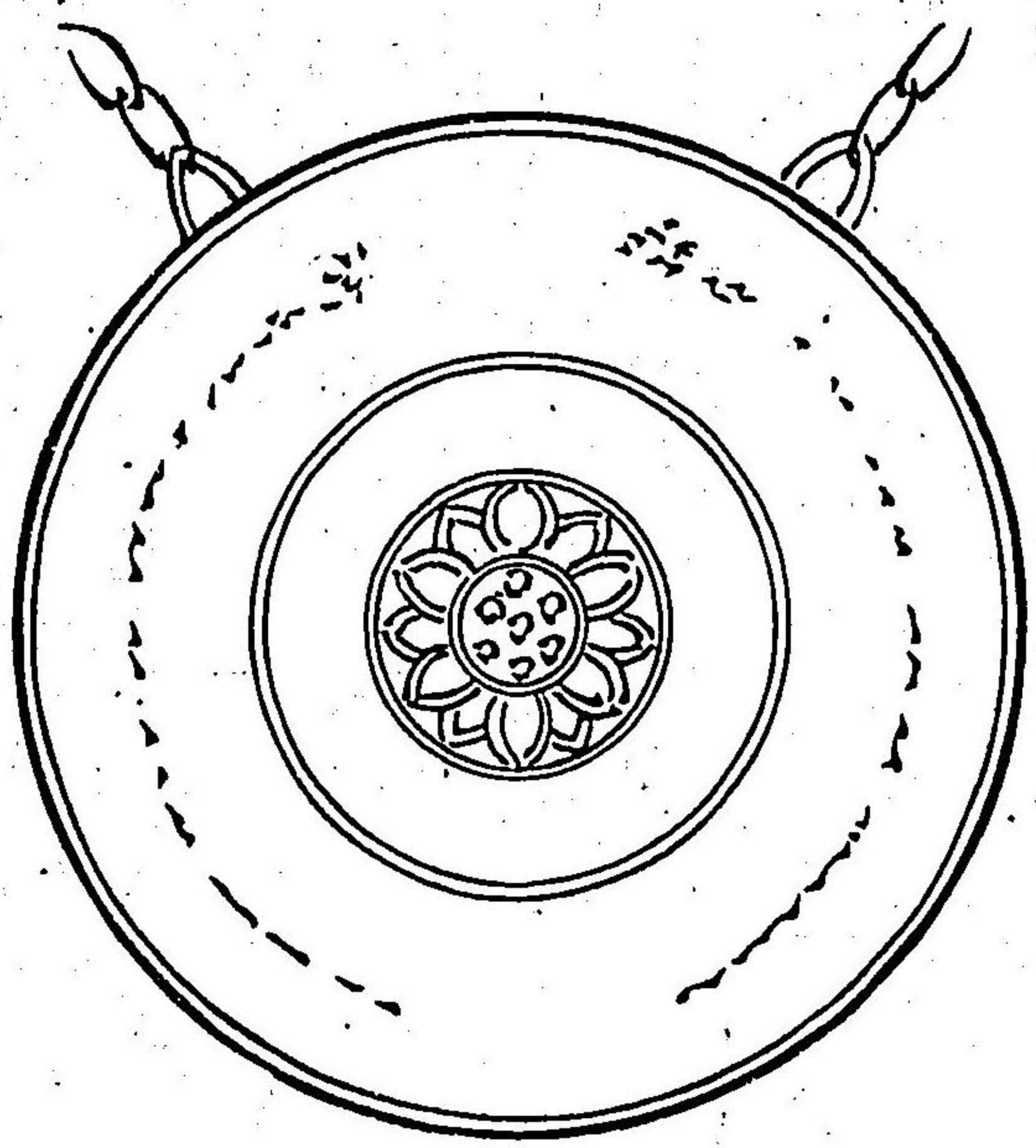


鱈口之部

鱈口ハ中古の頃人競ふて稻荷又ハ權現をまじく奉納するものありて取
分武州内ふハ古銅の鱈口あり故ハ古銅参考の為図を顯し多
くのありふり其年間毎ハ鱈口の形中真の模様等ハ至了迄知
る事を得るものあり



此ハ往昔江戸櫻田烏森
稻荷神社と云頃尤年
間ハ図中ハ記名しある如
くあれハ鱈口ハ至ハ先づ
古銅と云ハさるるが故此
の種類のもの即ハ青銅
の氣味を合するものあり
ナリ



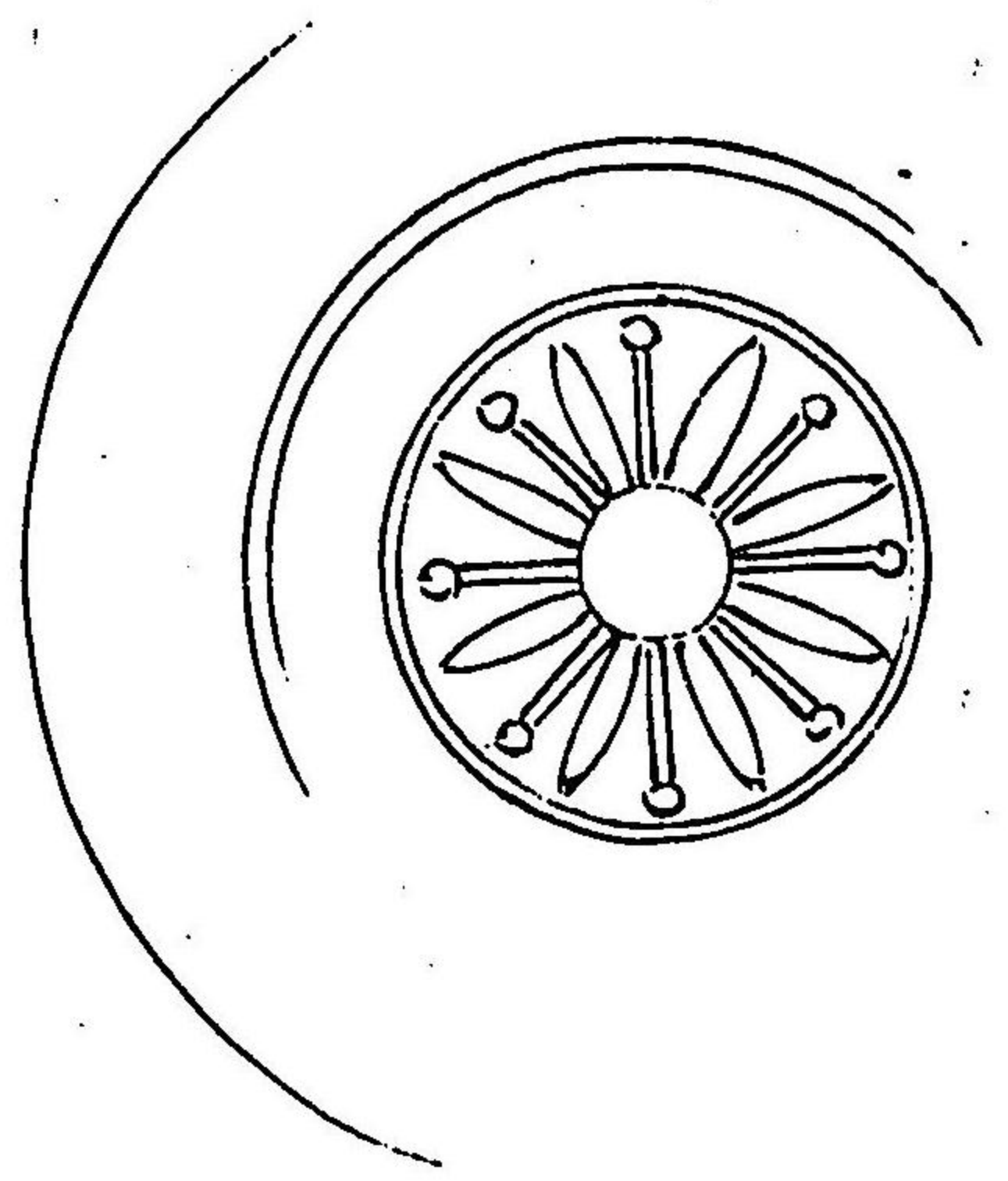
此の鰐口ハ往昔江戸永田馬場
山王本社乾の方稻荷の社懸
りありしものにて鰐口ハ記し
あり願主及奉納年号ハ左の
如し

敬白奉納山王權御宝前大檀
那直景願主南仙坊

武州豊島郡江戸館天正十四年
丙戌十月廿五日太田大和守長瀬
大工

図ハ顯々處の鰐口ハ武州
新倉郡下新倉村吹上
聖觀音福田山東明寺
のものなり

元龜二年辛未六月朔日と記しあり



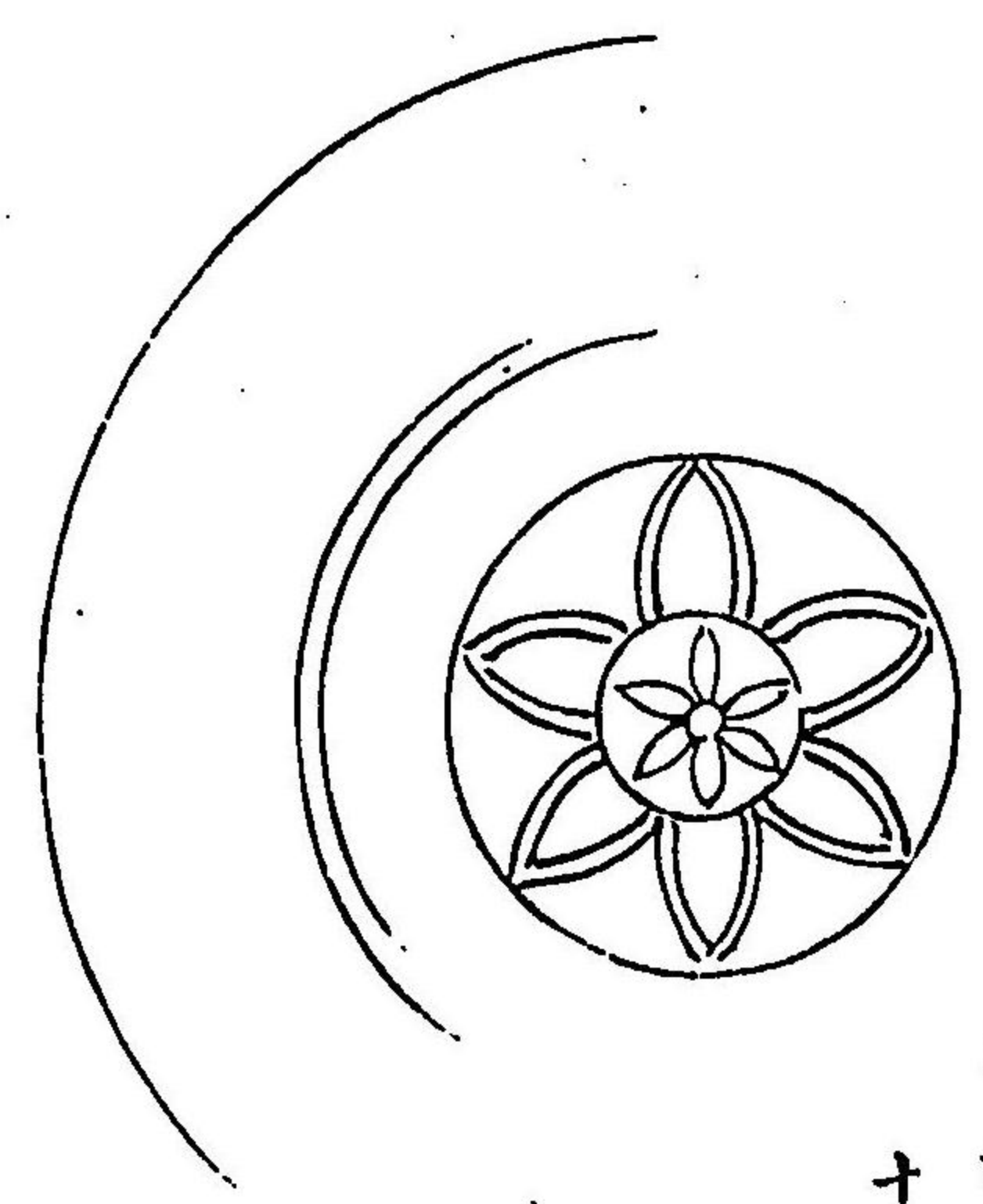
此の図ハ淺州觀音地内
三社權現ハ納めあり
古鰐口あり

年号ハ

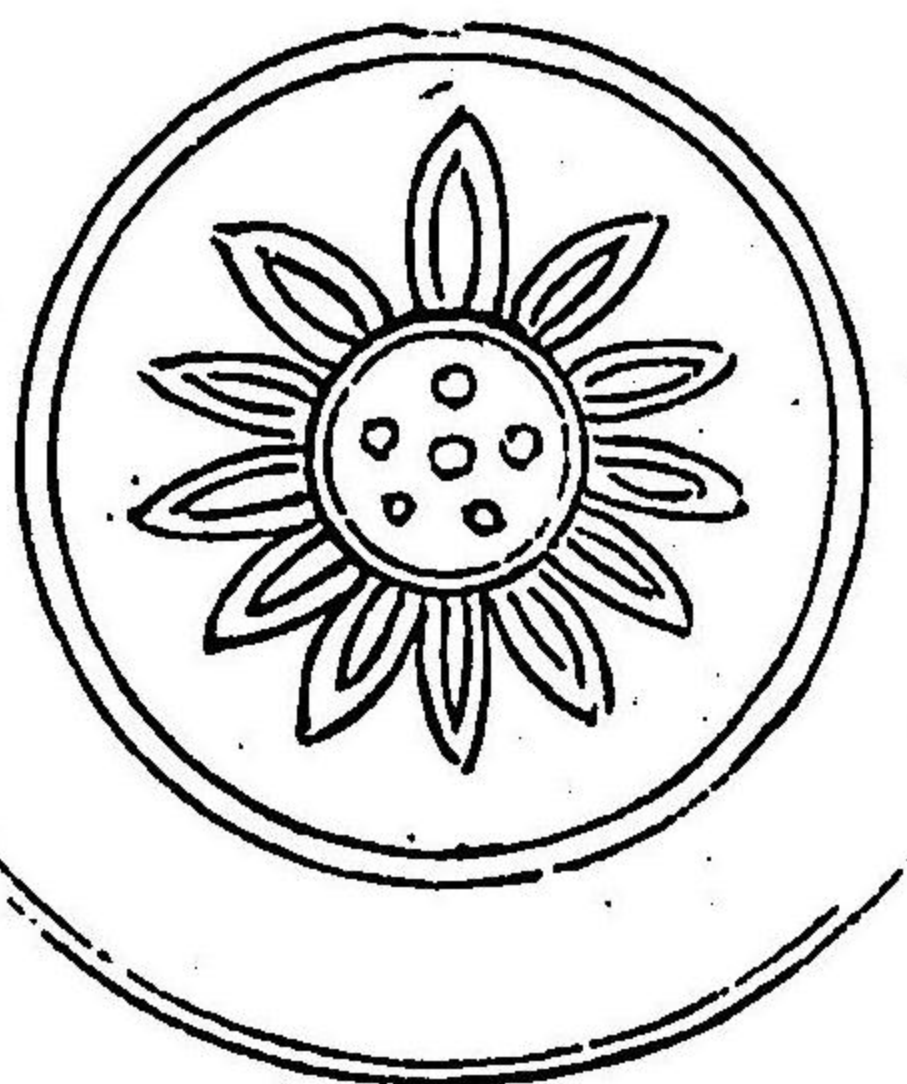
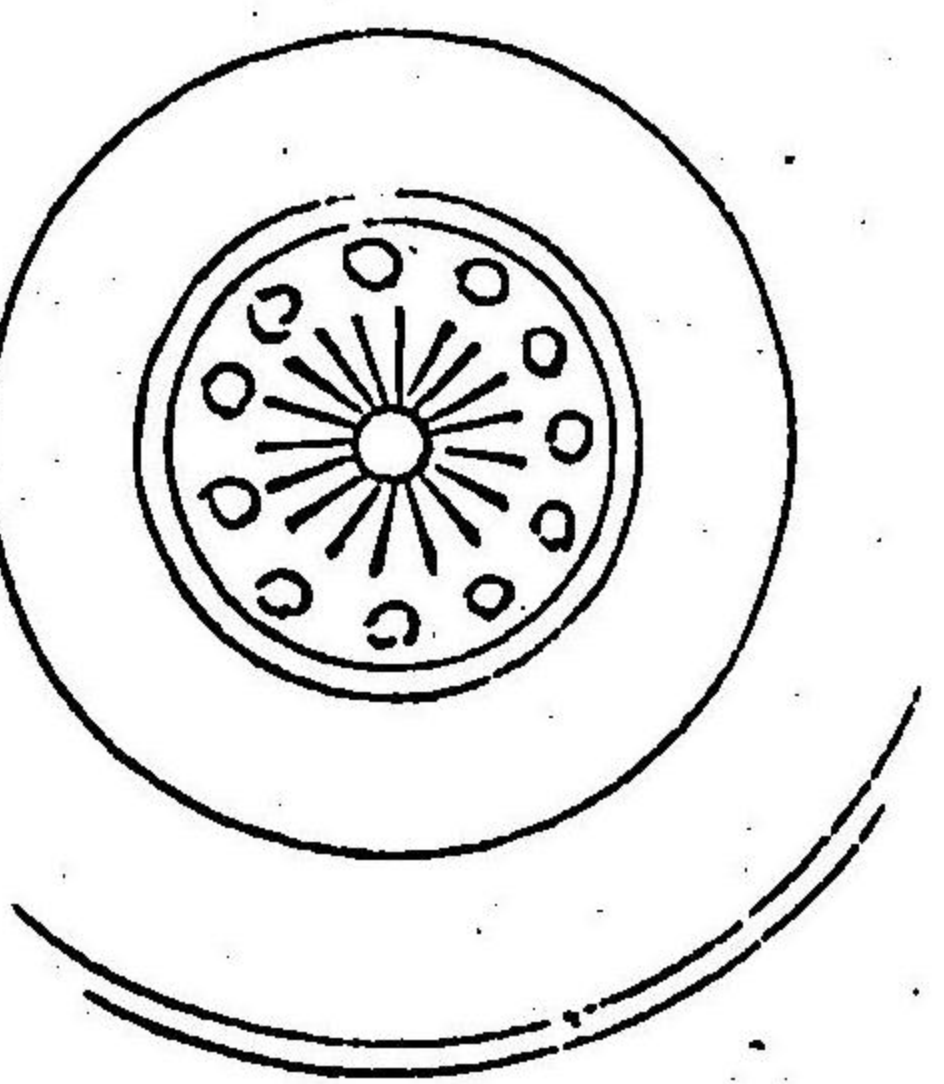
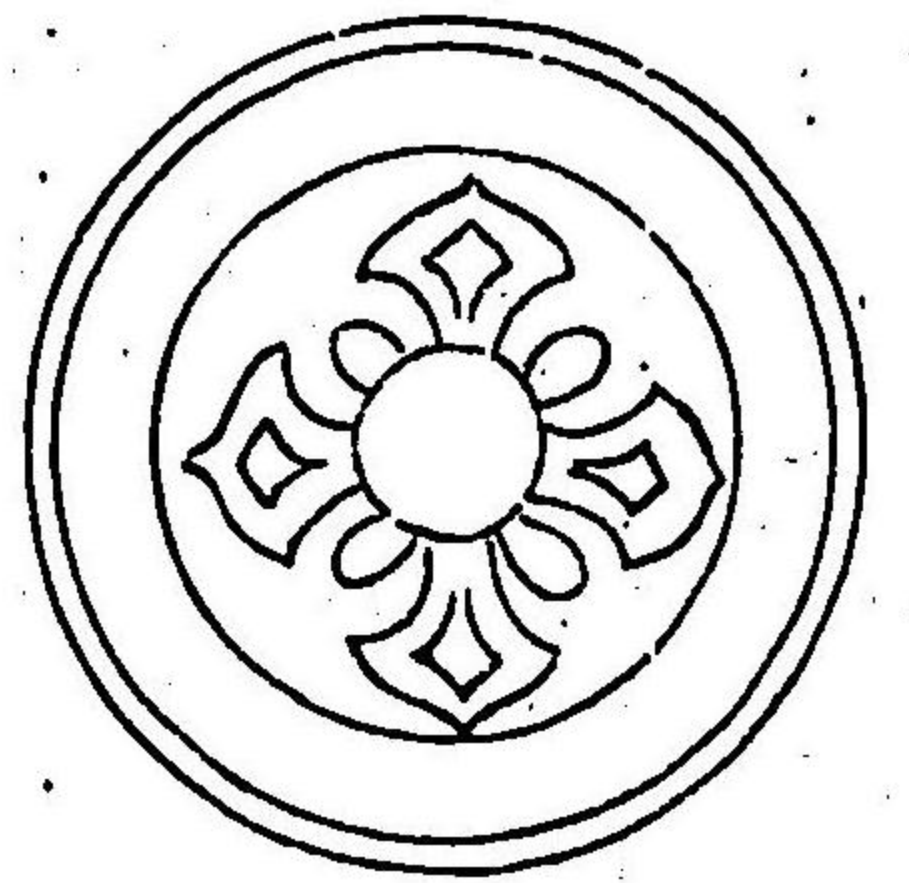
元和二辰年

十一月十八日

と記せり



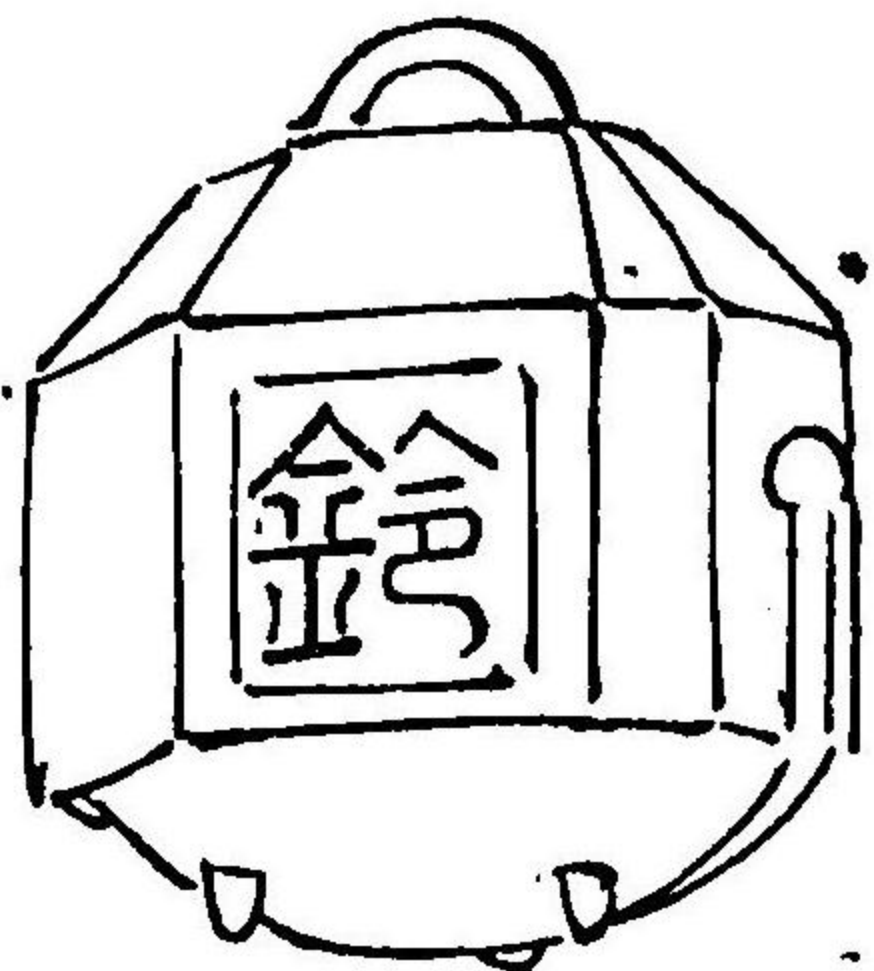
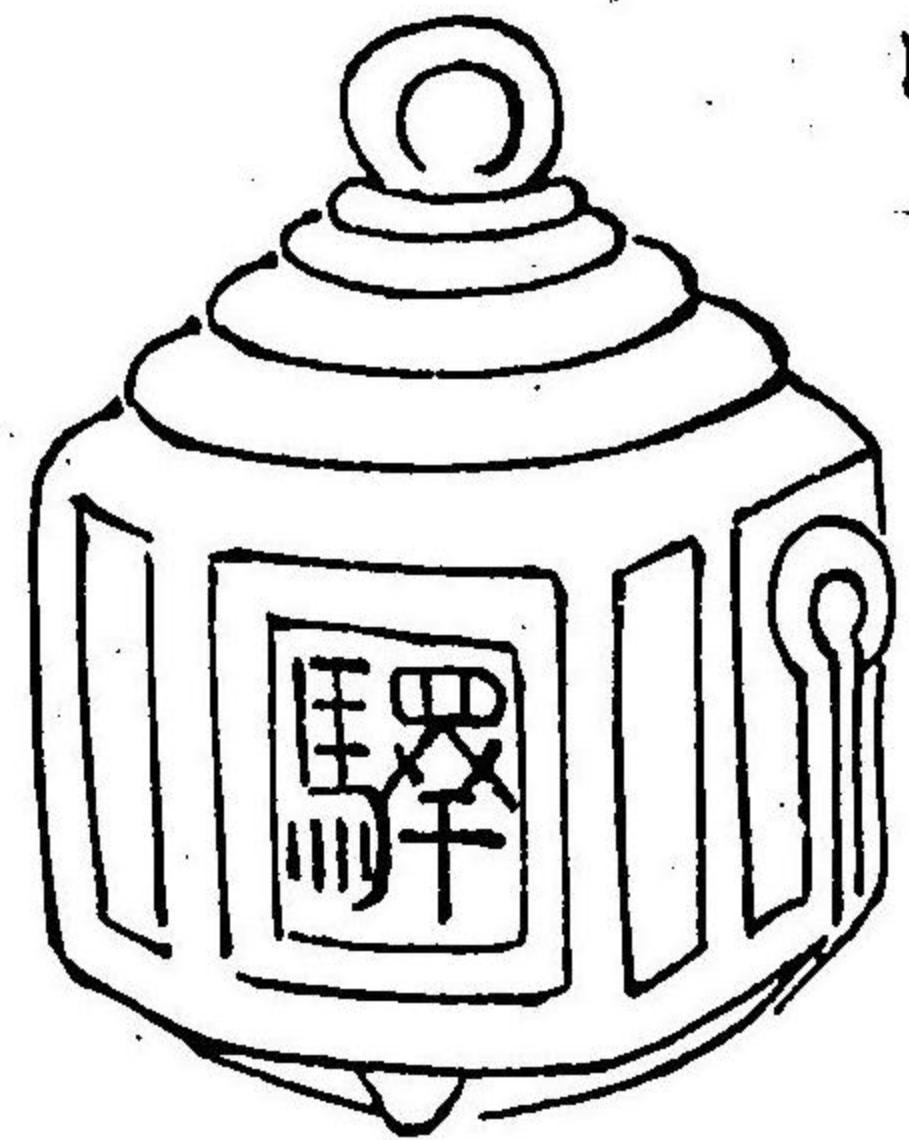
此の處に頭を三個の古銅口ありしものい何れか納りありや又願主の何人
ありや判明せむ古書ありしを見しありしを愛ふべきなりぬ



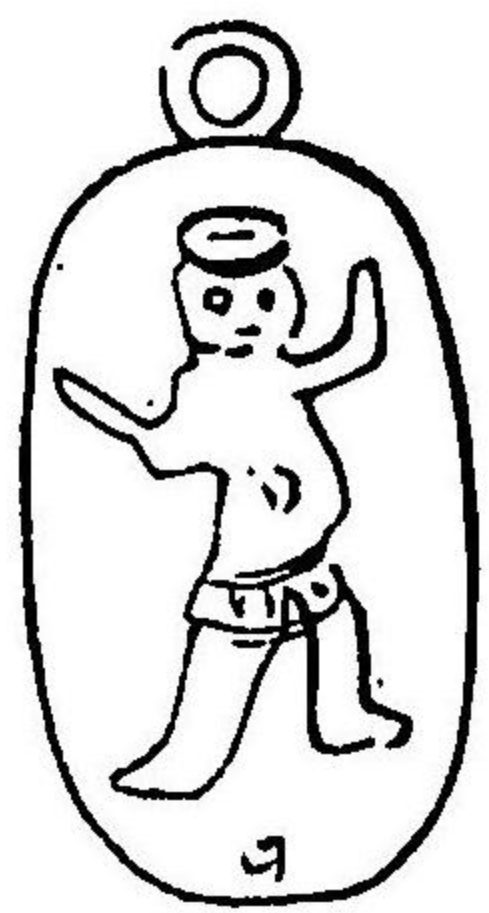
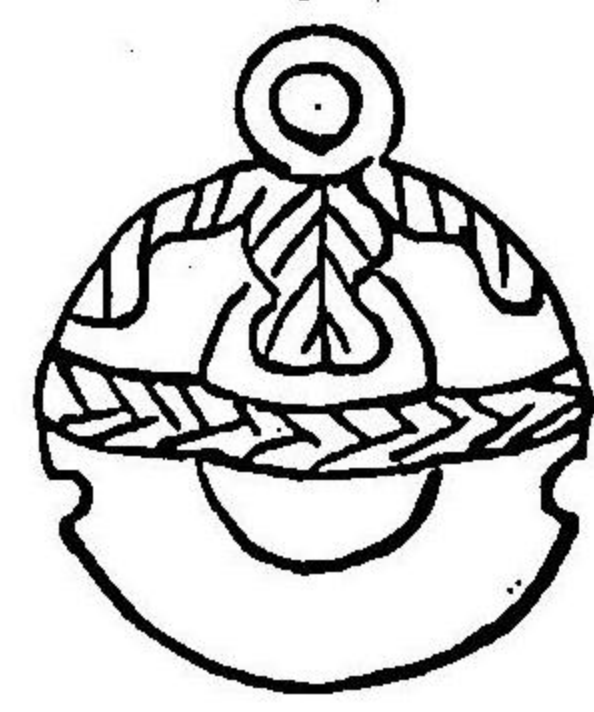
鈴の部

古銅と云へハ鈴も又其一ツありて往古のものハ随分貴ものあり唐土に在
りしハ古きものハ明鈴ハ次と云へり然れども唐土の古鈴ハ我朝ハ渡りしもの
如何ぞあり故ハ此の處ハ頭ありハ只二三のものありて参考の爲ハ記し置ぬ

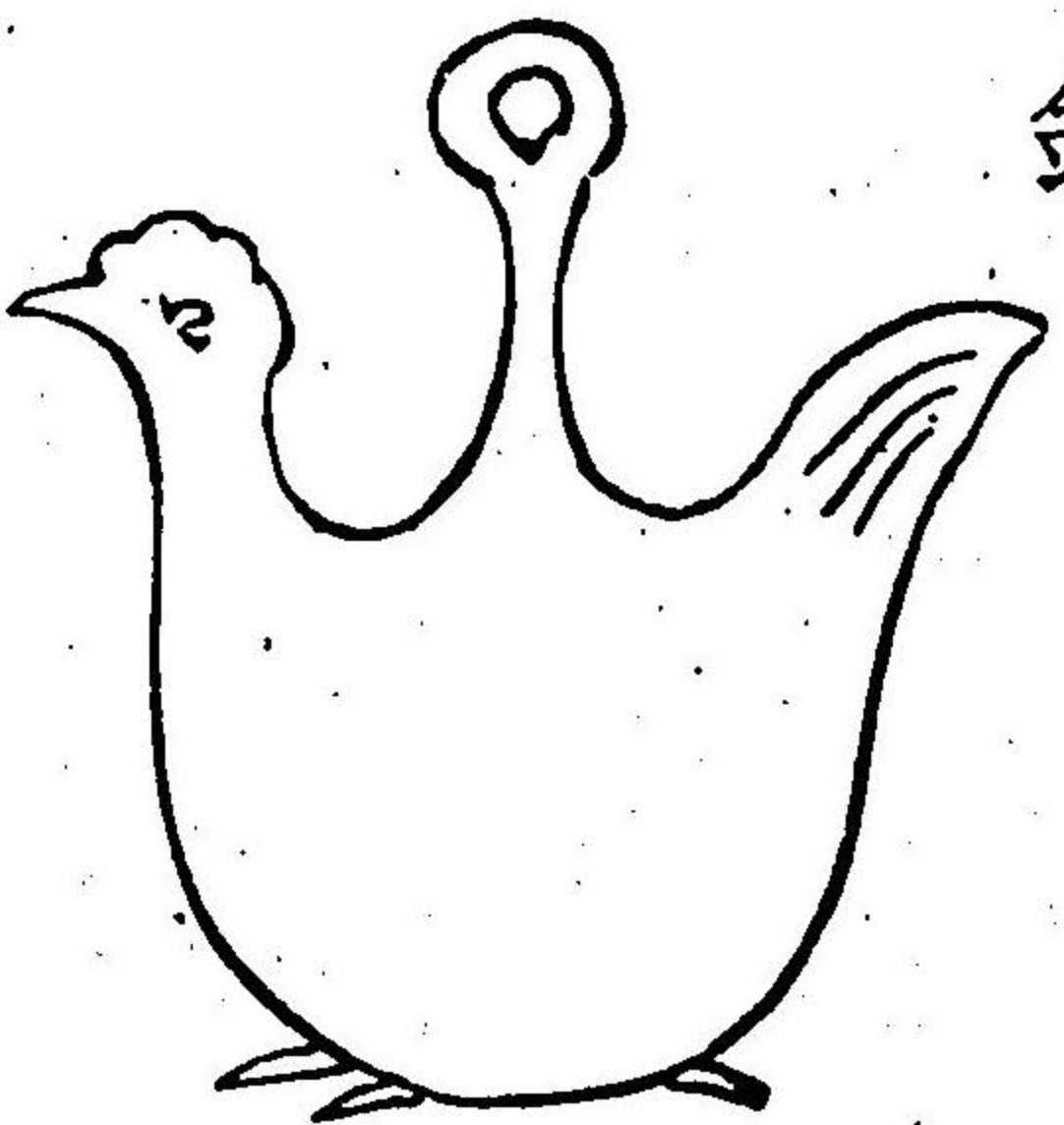
讃岐国北村官兵衛の所蔵にして其
他ハ此の類なる鈴形を見しものあり
われども我國の古鈴なるものを見
しものあり



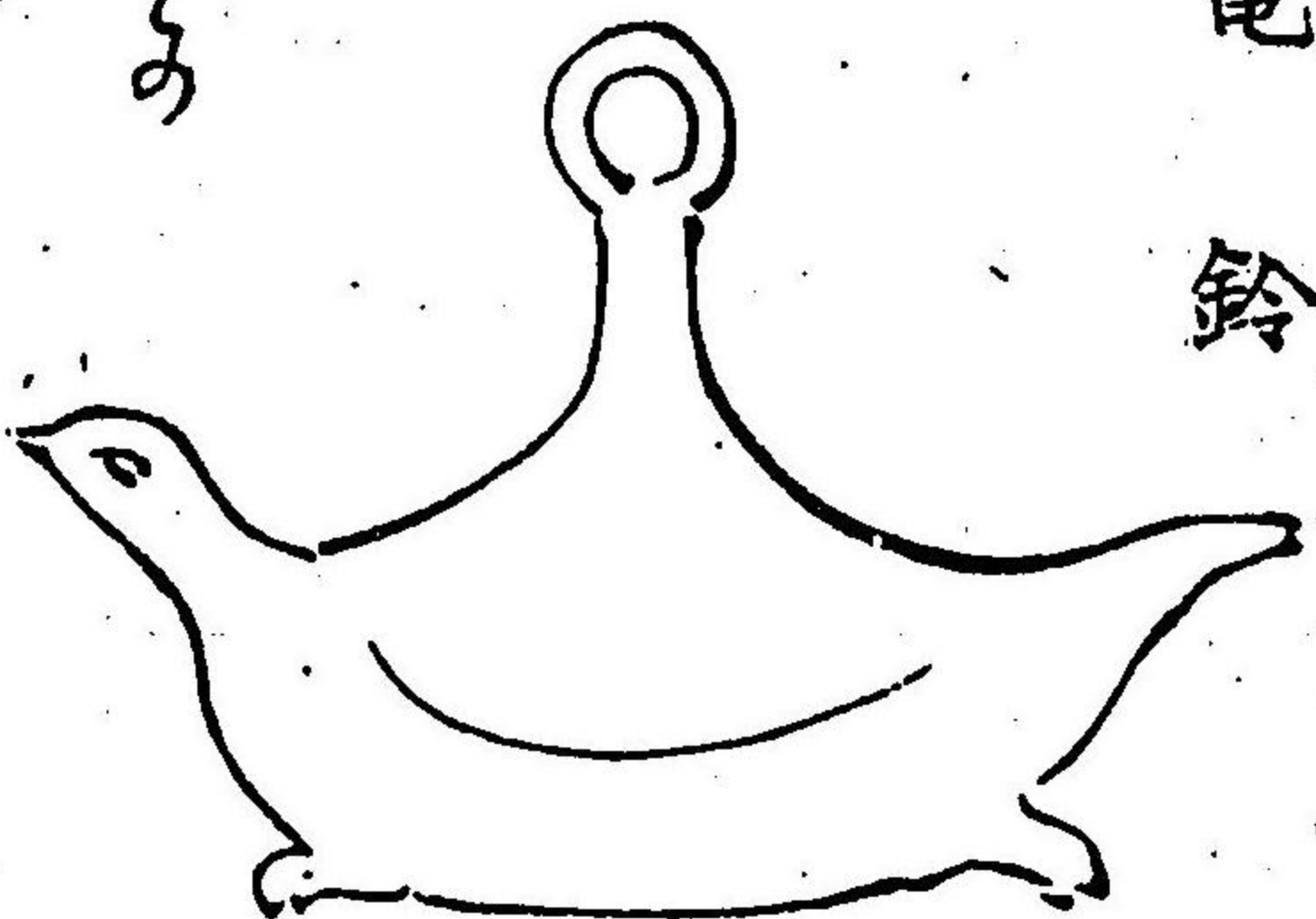
何れも騾鈴ハ新鑄の
ものあり時代ハ記し
難し



鶏鈴



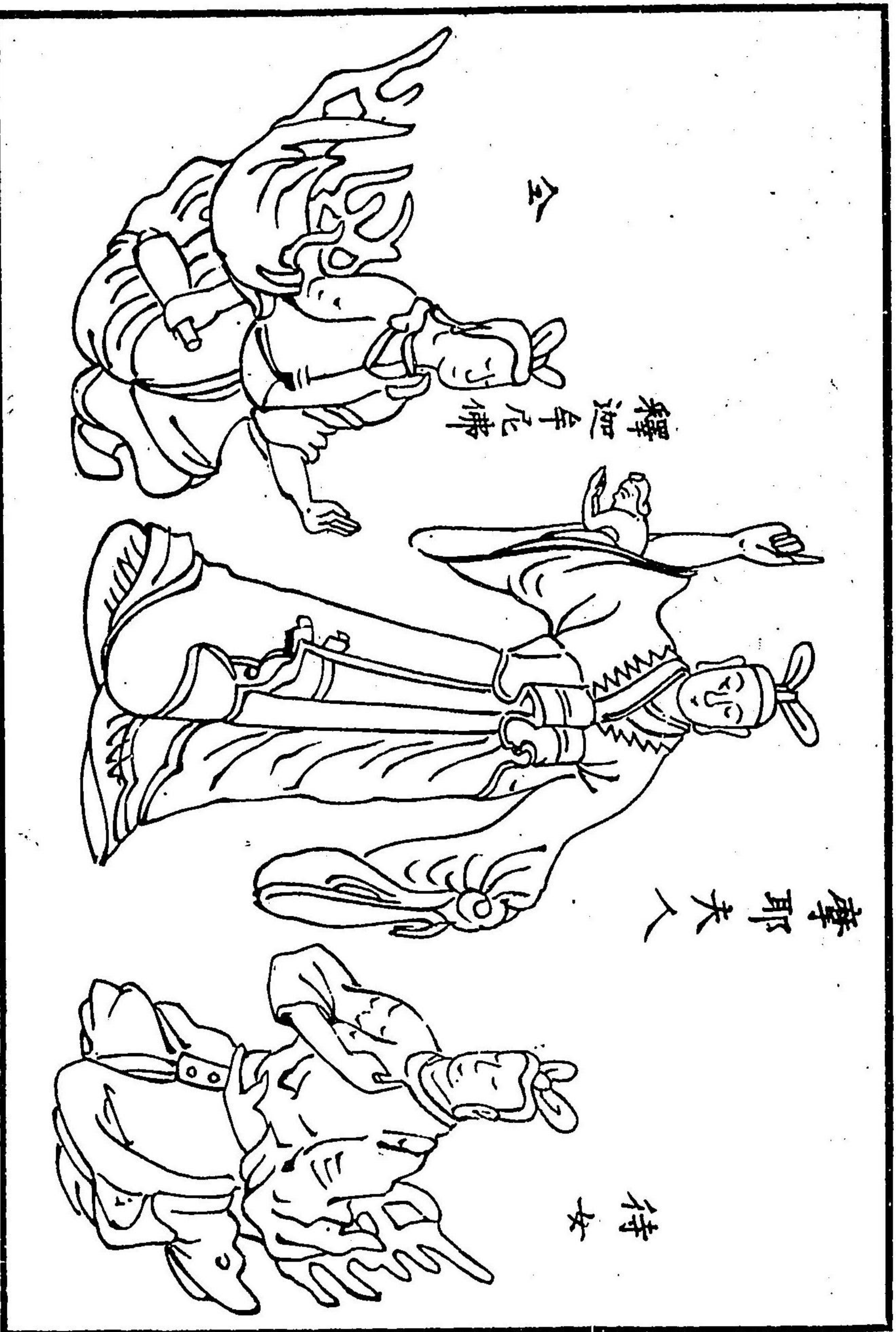
亀鈴



鶏鈴 亀鈴 共高麗製の古銅ありやその
説りたゞも真偽ハ保し難し

銅像之部

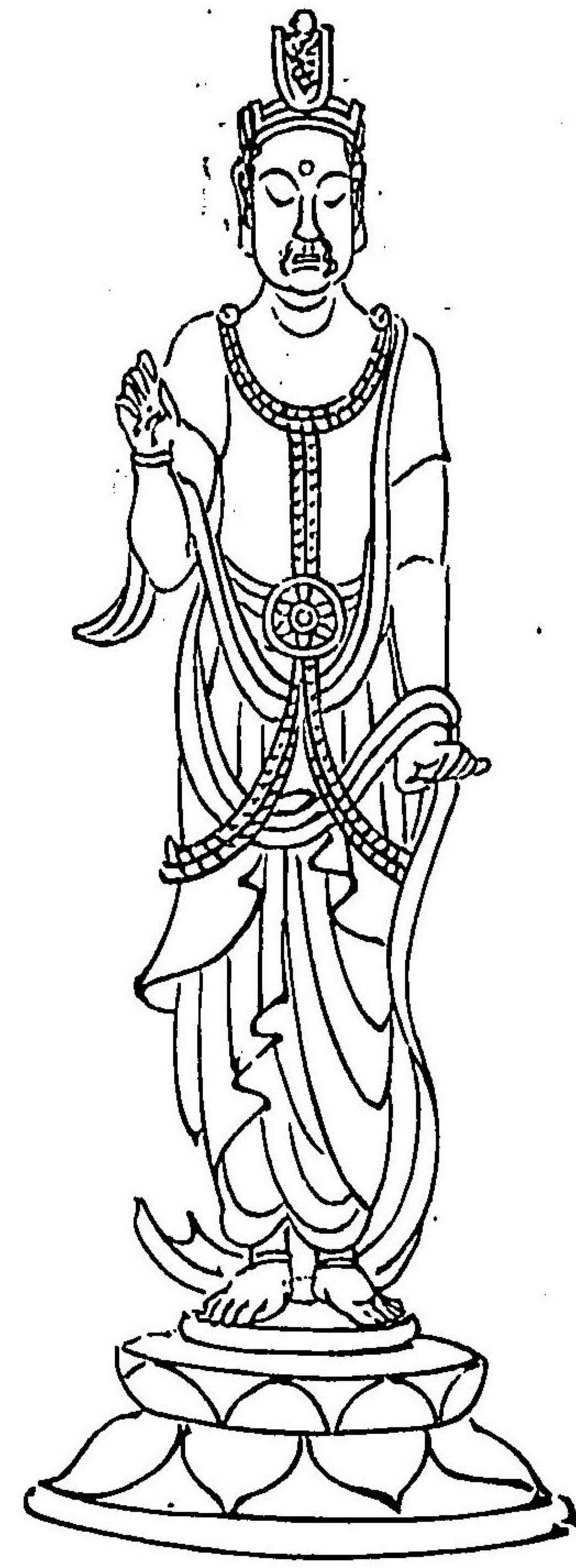
銅像ハ殊ホ太古の物有りて中ハ印度製の鑄造あり唐土の古銅佛
像あり又太古のもの少く何国の鑄造ありや判明せざとも鑑定家の眼
少く其想像ホ止るものありて就中此の道ホ志す人々の注目する所あり



四ノ頭も處の銅像ありしもの摩耶夫人釋迦牟尼佛誕生の古佛像
 あり高さ五寸六寸とあり銅色ハ青黄の鑄造して侍女の像体ニ軀
 とも銅色黒赤の鑄造あり高さ二体共小四寸二三分のものあり黄銅
 の薄板をよめて透鏤して襟飾り又裾飾りの如きものを肩と裾
 と小鋲止とよめて一種異体の鑄造して攝津の摩耶山寺の正堂小
 あり摩耶像と法隆寺の金堂ありの摩耶像と寸分と違つても其
 鑄造と云ひ更ふ異了處ありしものあり二像共同時同一の鑄造し
 ものふて恐らくハ全国ハ二体のものあり又此の鑄造ありや
 唐土ハありて印度佛ハ相違ありんとのことあり此尤左あり
 へき説めて古銅の佛造ありと鑑識するハ殊ニ此等の銅像をして
 参考ハ供せざるべしと云ふ銅像ハ其道の人ハあり如斯像の二三を
 図して示す時ハ自レハ何國の鑄造して又古銅の時代を知得ざるハ至らん

印度佛

古銅の印度佛ハ図の如きもの多し中ハハ図の如きものあり
 ざらとあれども大同少異ありて支那古代の佛像と大ハハ
 異あり頭上ハ一ツの冠帽やあるものを純粹の佛とて頂
 だけるハ古代の印度佛ハ限るべし



支那製古代の観音

古銅支那出来の観音ハ時代より其像様々なれども概して
 図の如きもの多し我朝少くも鑄造と云ふものありて古代の支
 那出来と見紛ふことあり

去あつて日本

出来と唐土の

ものとの鑄形又

ハ磨みて尤も

異なつて

あり



和漢古代の木彫并ニ蠟石彫刻之事

往古ハありてハ和漢とも彫刻の様不器用^{さきよま}なまり又自然の雅致を會
 めるものあり何とふれば古への人皆刀を^や持し向ふ切つて少くも器用ハ
 小刀^{こがた}を逆^{さか}し取り自由ハ切刻^{きり}むこととふり得ざるものと云つり

尤然り我朝ふてハ世ハ名手の職

へある左甚五郎の如き中古の人

ふれども其作を見れば必ずま

ましく向ひ小刀を遣ひたるものと云

こと明かあり因ハ頭を龍頭ハ巨大

の木彫ふて余の見際寫し置

もの少く只彫刻の如何んハつき参考

追ハ畧して記しをま

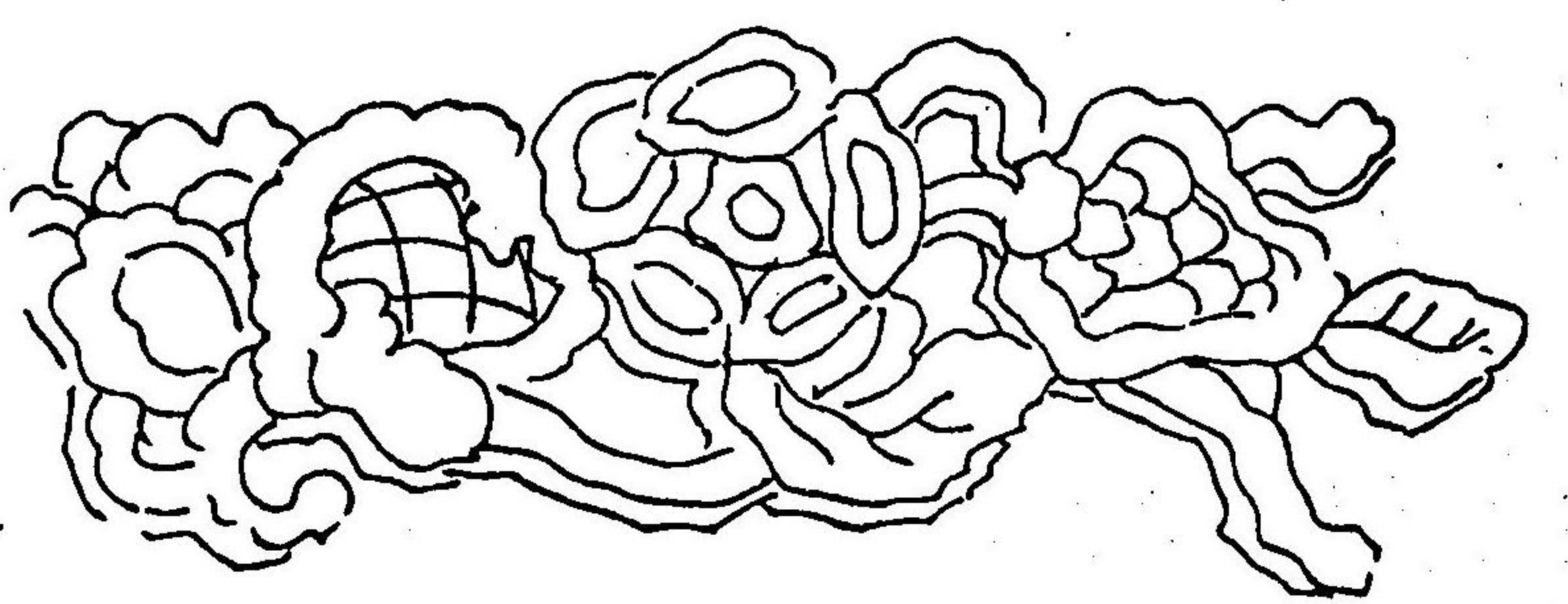


今や我国の彫刻日々小進にて其自由ふるごとく古物を摸するもハ向ハ小刀を遣ひ新製のものハ一目して感^とを起さしめ又歐米の彫刻を見れば直ち小摸寫して人の眼を驚かさしむるも此れ又一種の國風あれば曾て他邦小例のみきとてつらふべし

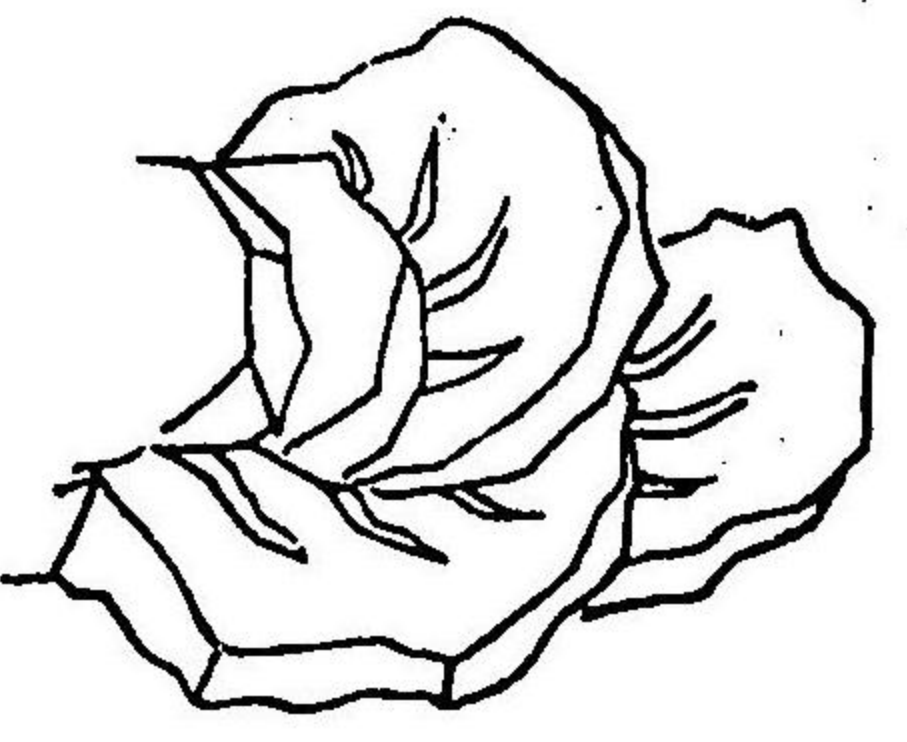
然るも今尚支那土ハ其彫刻する所の物何れも向ハ小刀ふわぶらるハあり故ハ新古共ハ唐土の彫刻ものもハ此よりして見分るべし併し我國も往古ハ向ハ小刀を遣ひしことあるれども其頃唐木ハ彫刻する物あり左れば此の一を以て我國古代の彫支那製とて見分るごとく敢て難きふわぶらるべきあり

左ハ掲ぐる所の古代木彫物ハ尤唐土のもの少く甲乙丙とも其小刀扱を見了の参考図ありが故徒ハ粗刻とする物と思違ハずよと心とて非致の何れふわぶらるを知べし

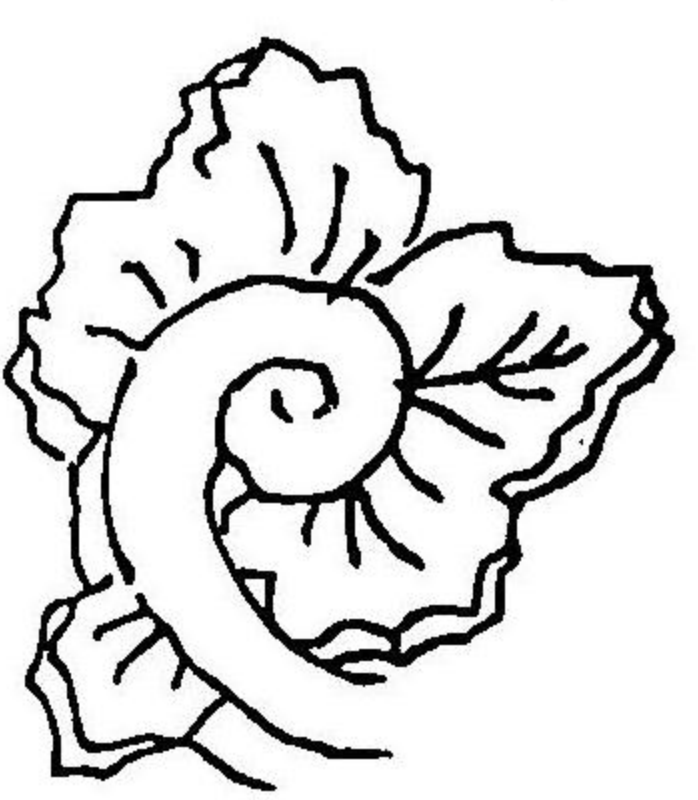
古代木彫物之形



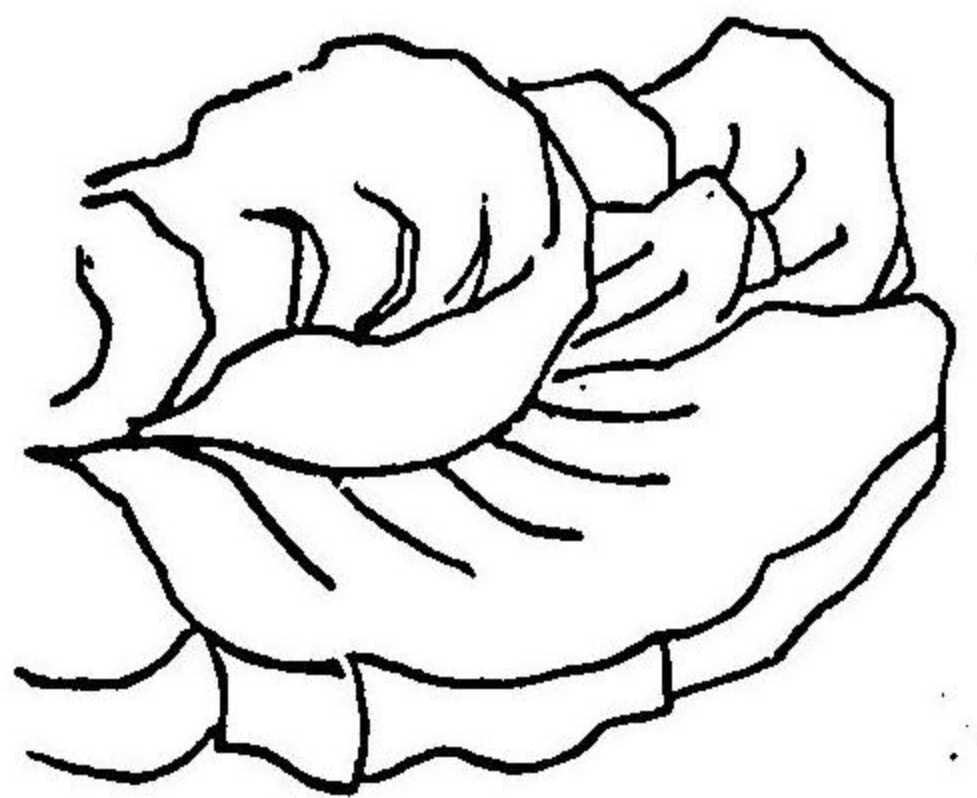
甲



乙



丙



中古支那木彫物の形



全



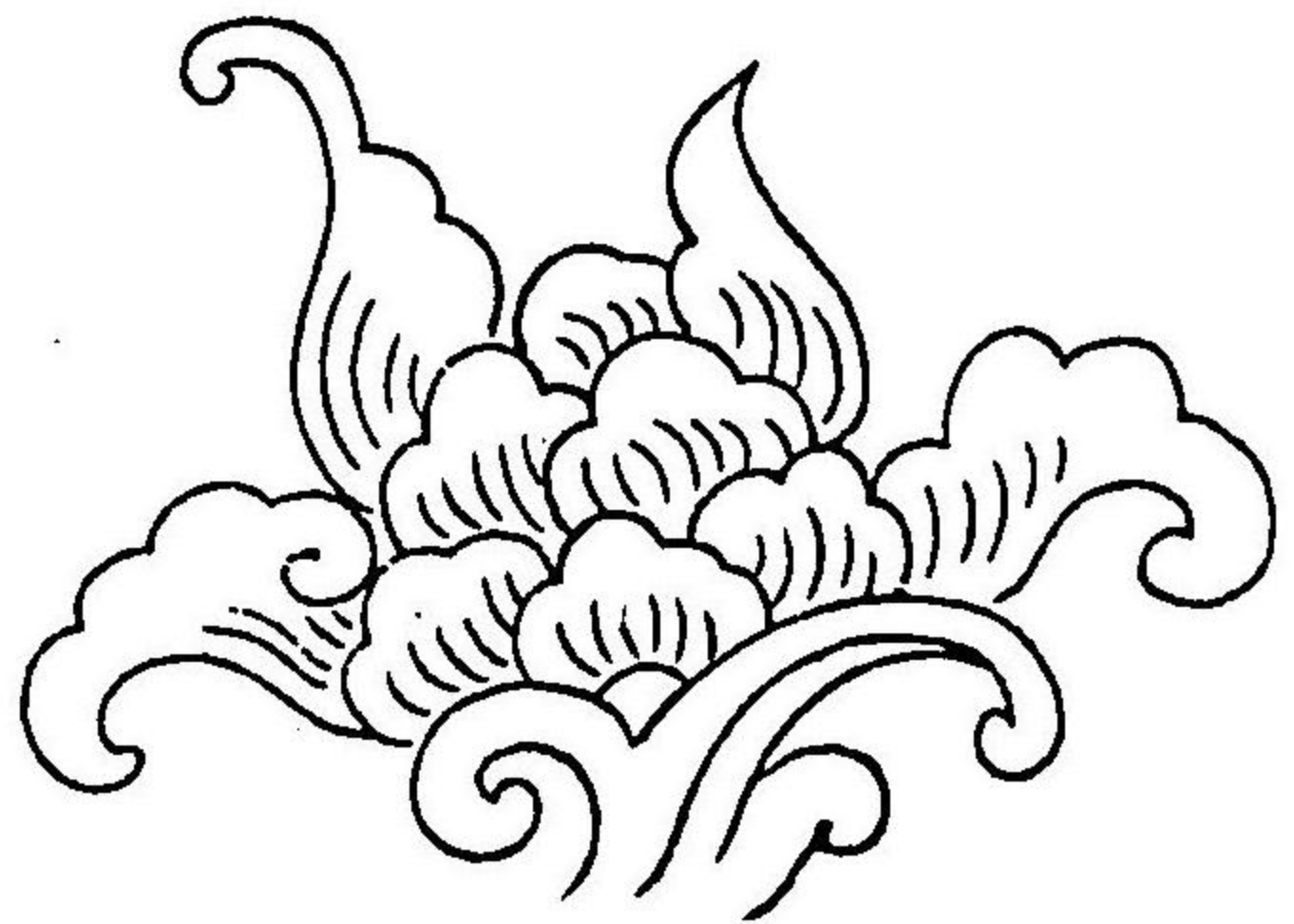
全

此の図ハ何れも唐土の彫刻ふれども進化して器用とあり終に雅致を

失ふ

至

ものあり



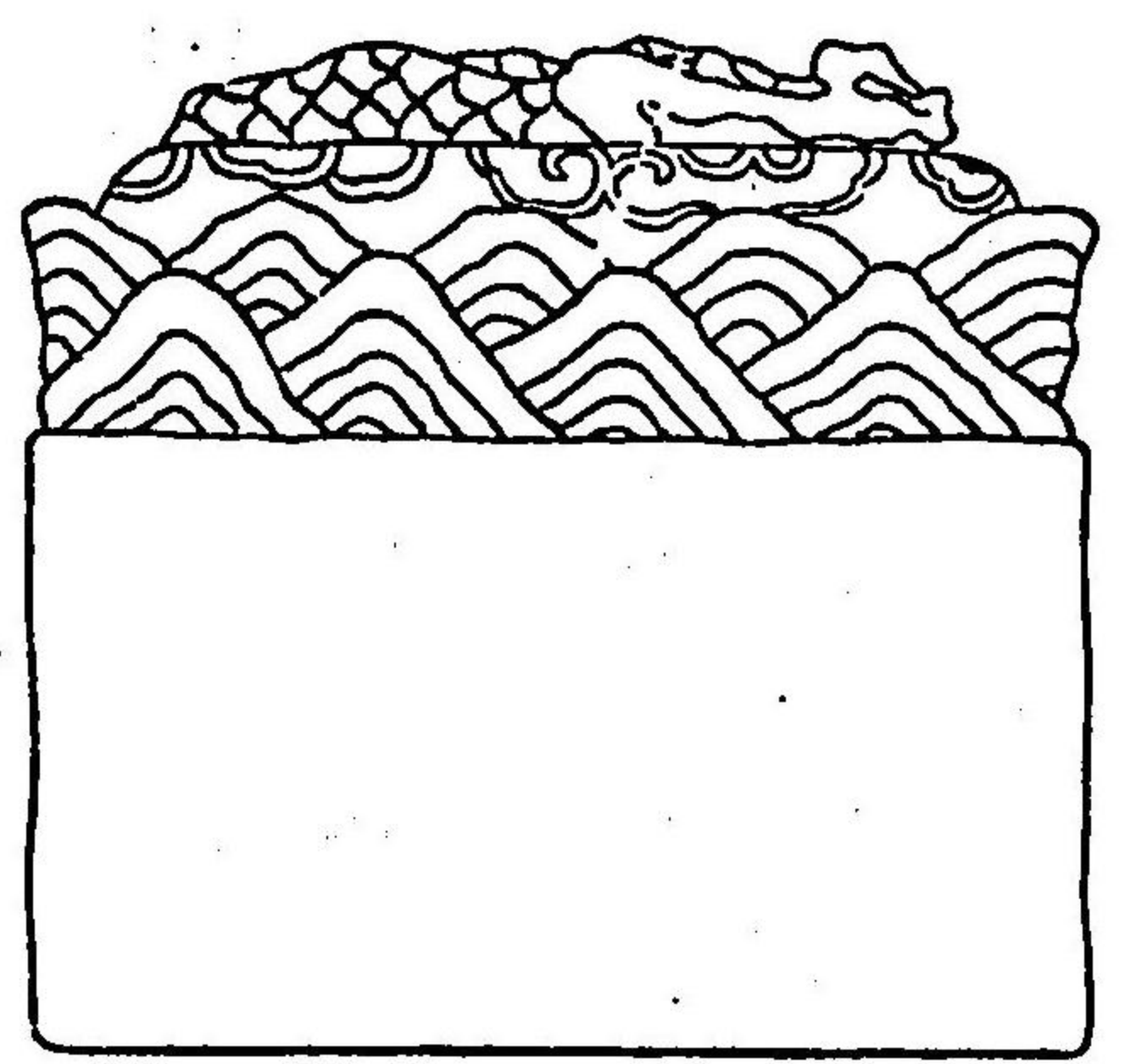
明彫刻蠟石之印材

上ヨリ見ル図



此等ハ最も支那彫の模範とふるものあり

側面の図



運慶作
木彫
坐像観音

像あるものい造れる其

人より又其

時代よりて

何れも衆ら

を異ふする

ゆのみし殊よ木彫の坐の

如きハ美術中の美術骨董中の

骨董ふれば畧寫ふれども参考の為爰ふあし



観音木像

傳ニ云聖徳太子の御時代百濟国より傳來せし物なり
佛の一ツありとあるより凡千三百年のものあり



何分太古のものなれば最早諸所脱落して判然せざる所多し
兩股の下は圓形の異体ありとのありハ手の脱落せざる跡を足も同く失ありとの見
得あり

暹羅國製佛像

此の佛像

一軀ハ最

新のもの

なれども余

曩も見たる古物あるもの

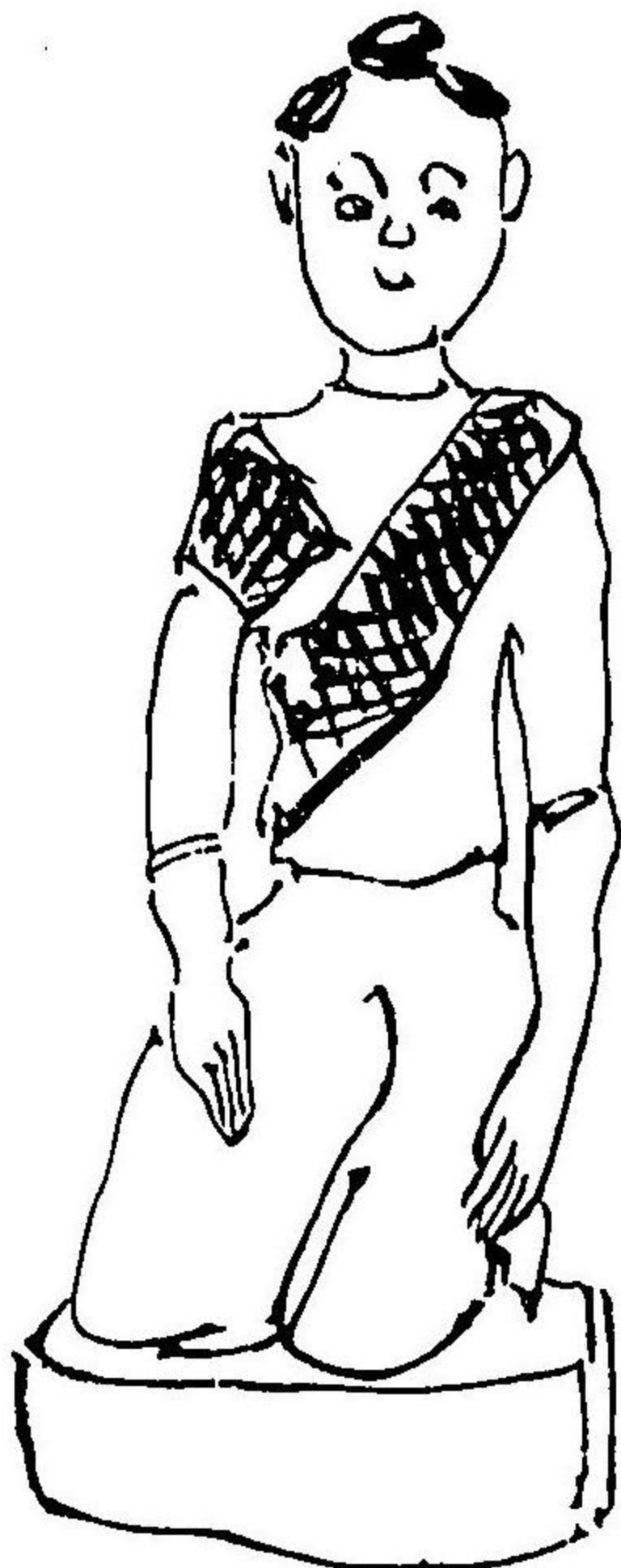
多少の違ひあるのを参考の爲め爰に描く



全國製人形

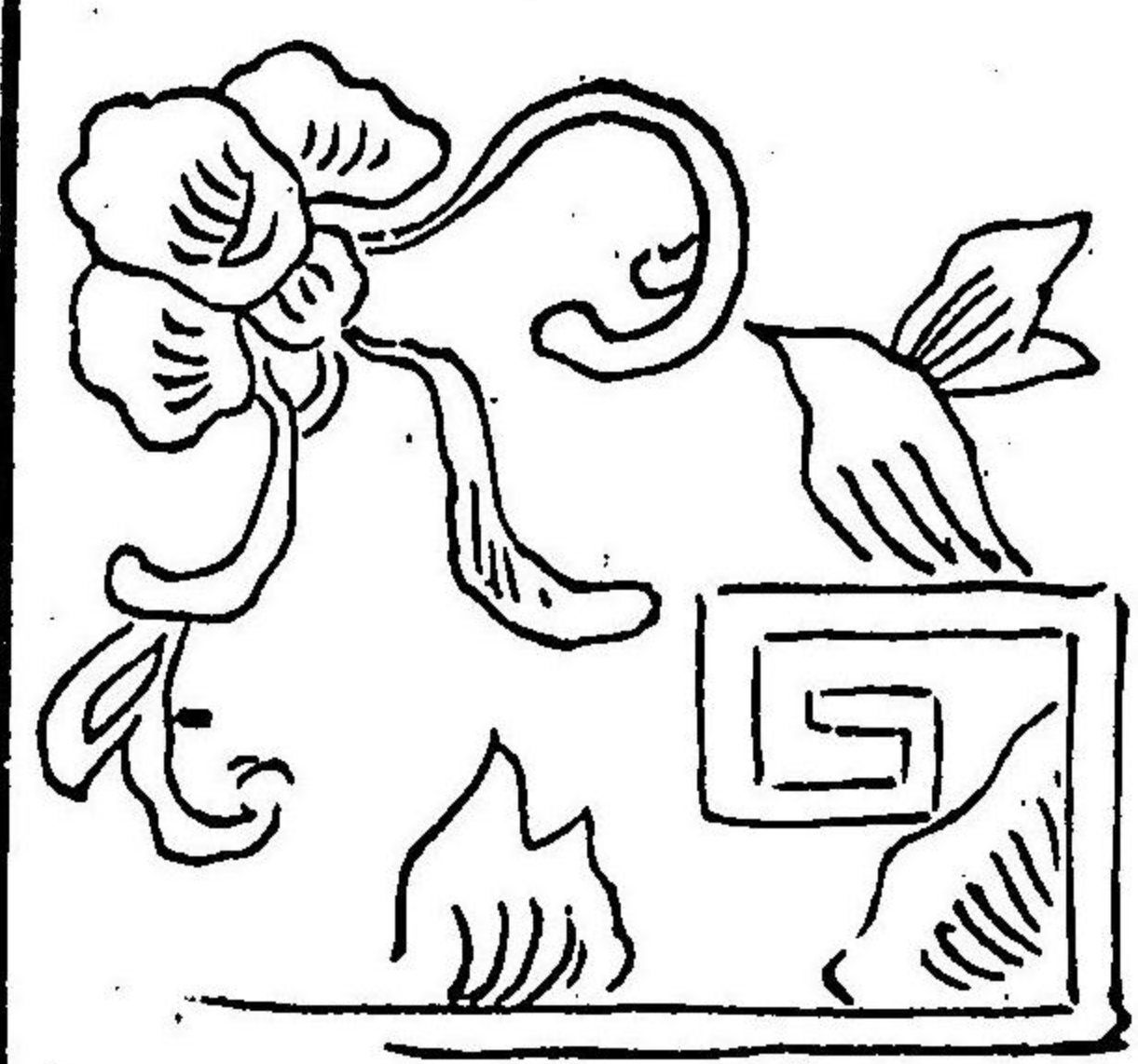
此れあるハ古物にあらず

参考近小頭もの



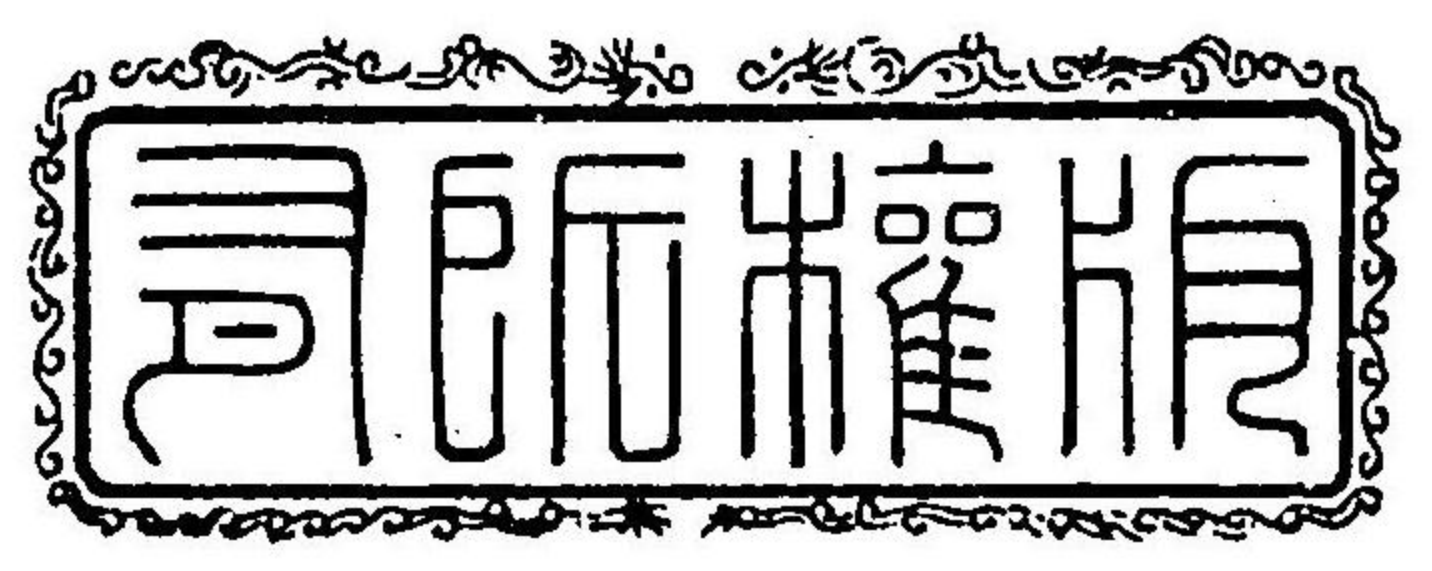
図小頭も慶のものハ
安南國小製造もの物
品へ彫刻又ハ象眼其
他青貝の類皆此の摸
様ふまへて就中青貝も
のふまへ摸様柄のもの
多し新古ともふ大い
ふ違ひふし参考と
して爰ふまへしぬ

秘鑑定 美術類集卷之下終



明治二十八年十月五日印刷
全 二十八年十月十六日發行

定價金四拾錢



著者 中島信義
東京市京橋區米女町

發行兼印刷者 青木恒三郎
大阪市東區博労町四百廿七番屋敷

發賣所 青木嵩山堂
大阪市心齋橋筋博労町

全 青木嵩山堂
東京市日本橋區通子目

賣捌所 嵩山堂支店
勢州四日市港堅町

全 山田直三郎
京都市寺町二條下ル

